

# 第 59 回 河川レンジャー制度運営委員会

日 時：令和 2 年 2 月 14 日（金）14:00～17:00  
場 所：琵琶湖河川事務所 1 階会議室

## 議 事 次 第

### 1. 開会

### 2. 委員紹介

### 3. 報告

- (1) 第 58 回河川レンジャー制度運営委員会の議事録について (資料-1・2・3)
- (2) 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会について (資料-4)
- (3) 琵琶湖河川レンジャー勉強会「第 2 回 水防災研修」開催報告 (資料-5)
- (4) 河川レンジャー年間活動報告 (資料-6)

### 4. 審議

次年度の年間活動計画（案）【暫定版】の承認について (資料-7)

### 5. 意見交換

琵琶湖河川レンジャー活動の視点の位置づけについて (資料-8)

### 6. その他

- (1) 河川レンジャーレポート VOL39 発行について (参考資料-1)
- (2) 今後のスケジュール（案） (参考資料-2)
- (3) 傍聴者からの意見

### 7. 閉会

---

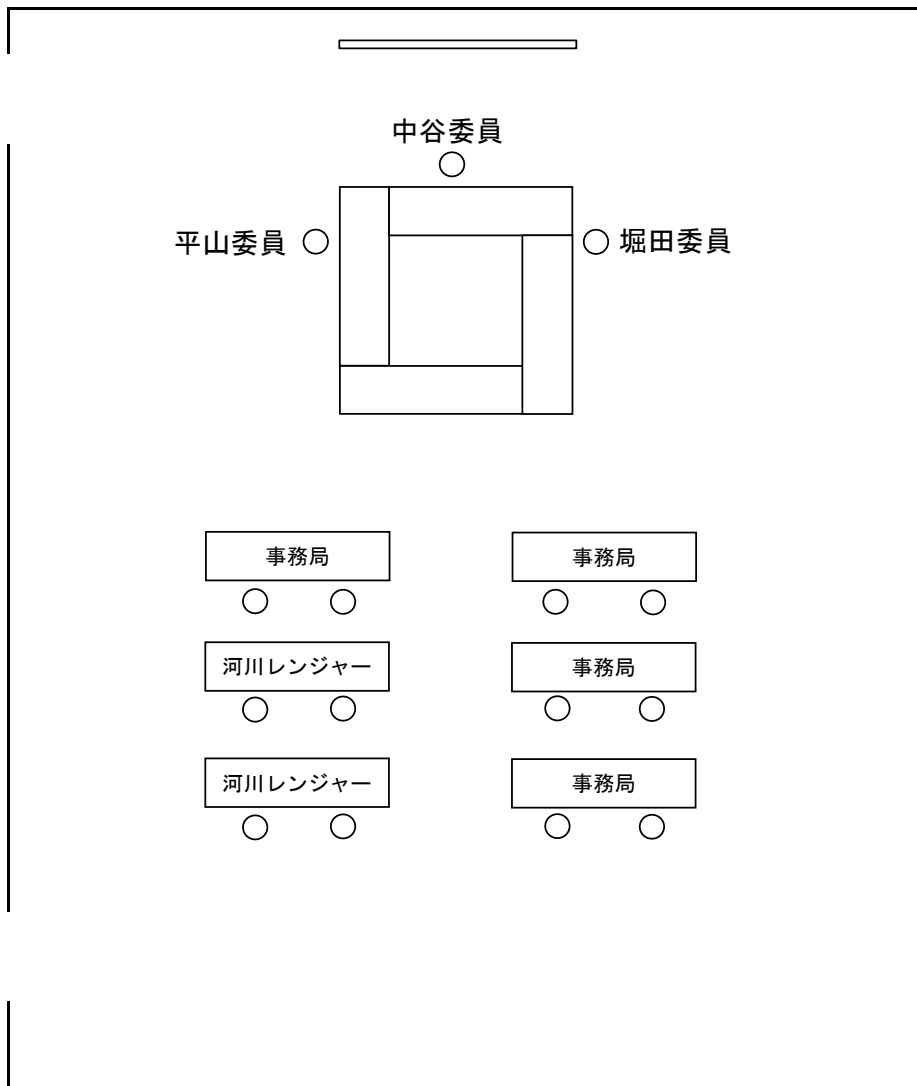
#### 【配付資料】

- 資料-1 第 58 回河川レンジャー制度運営委員会 議事要旨
- 資料-2 第 58 回河川レンジャー制度運営委員会 議事録
- 資料-3 新規琵琶湖河川レンジャー応募者の審査結果について
- 資料-4 第 2 回 河川レンジャー・琵琶湖河川事務所意見交換会開催報告
- 資料-5 琵琶湖河川レンジャー勉強会「第 2 回 水防災研修」開催報告
- 資料-6 河川レンジャー年間活動報告書（要約版）
- 資料-7 2020 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動計画（案）【暫定版】
- 資料-8 琵琶湖河川レンジャー活動の視点 検討資料
- 参考資料-1 河川レンジャーレポート Vol.39
- 参考資料-2 2019 年度の年間スケジュール

## 第59回 河川レンジャー制度運営委員会 委員名簿

区分	分類	氏名	所属等	備考
河川レンジャー 制度運営委員会	学識経験者	なかたに けいごう 中谷 恵剛	NPO法人瀬田川リバプレ隊	
		ひらやま なおこ 平山 奈央子	滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科	
	住民	きたい かおり 北井 香	淡海の川づくりフォーラム実行委員長	欠席
	行政関係者 (河川管理者)	やまざき くにお 山崎 邦夫	滋賀県土木交通部 流域政策室 河川・港湾室 室長	欠席
		ほった のぶゆき 堀田 伸之	国土交通省 琵琶湖河川事務所 所長	

### 配席図



(敬称略)

## 河川レンジャー制度運営委員会 事務局名簿

区分	氏名	所属等	備考
琵琶湖河川事務所	おくの 奥野 じゅんいち 淳一	保全対策官	
	とだ 戸田 かつし 勝士	管理課 専門職	
流域連携支援室	まつおか 松岡 とおる 徹	河川レンジャーマネージャー	
業務受託者	なかにし 中西 ふみなお 史尚	河川財団 近畿事務所	
	てらい 寺井 よしゆき 喜之	河川財団 近畿事務所	

## 第 58 回 河川レンジャー制度運営委員会 議事要旨

日 時：令和元年 10 月 31 日（金）14:00～17:00  
場 所：ウォーターステーション琵琶 1 階会議室  
出席者：制度運営委員会委員：中谷、北井、山崎、堀田  
琵琶湖河川レンジャー：根木山、水上  
琵琶湖河川事務所：奥野、戸田  
流域連携支援室：松岡、武田  
業務受託者：中西、寺井、小野

(敬称略)

### 1. 議事

- 報告
  - (1) 第 57 回河川レンジャー制度運営委員会の議事録について
  - (2) 新規琵琶湖河川レンジャーの応募受付と審査実施について
  - (3) 第 1 回琵琶湖河川レンジャー勉強会 開催報告
- 審議
  - (1) 河川レンジャー中間活動報告
- 意見交換
  - 琵琶湖河川レンジャー活動の視点の位置づけについて
- その他
  - (1) 今後のスケジュール（案）
  - (2) 河川レンジャーレポート Vol. 38 発行について
  - (3) 傍聴者からの意見

### 2. 結果

#### (1) 報告

##### 1) 新規琵琶湖河川レンジャーの応募受付と審査実施について

○前回意見のあった、新規河川レンジャーの応募期間や審査のタイミング等の運用ルールの再整理について、基本的考え方として下記とする。

#### ◆新規琵琶湖河川レンジャーの応募受付と審査実施の考え方

- ・琵琶湖河川レンジャーは、必要に応じて募集する。  
募集期間は、必要な任命数が得られるまでの任意の期間とする。
- ・審査は、応募があった場合、年間 3 回開催される「河川レンジャー制度運営委員会」（以下：委員会）において、非公開で実施する。
- ・応募は、直近の委員会開催 2 週間前（事務局内手続きに必要となる期間）までに申請があった者に対して受け付け、事務局内手続きを行い、受理する。直近の委員会開催まで 2 週間を切った後に申請があった場合は、次回委員会での審査に向けた受け付けとし、事務局内手続きを行い、受理する。

- ただし、応募があった時点での委員会準備の進行具合等、弾力的に運用すること。
- 年度2回目や3回目の委員会で審査実施の場合は、合格者の活動期間が短くなる。そのため、審査時期に応じて、合格した場合の活動期間を応募者に予め説明しておくこと。

## (2) 審議

### 1) 河川レンジャー中間活動報告

- 根木山河川レンジャー、水上河川レンジャーより中間活動報告があり、委員より意見・助言、質疑が行われた。
- 近藤河川レンジャーについては、欠席のため、河川レンジャーマネージャーが代わって報告を行い、委員より意見・助言、質疑が行われた。

(※各委員からの助言・意見等の詳細は、議事録を確認)

## (3) 意見交換

### 1) 琵琶湖河川レンジャー活動の視点の位置づけについて

- 検討資料の「琵琶湖河川レンジャー活動の視点」に関する記載内容について、今回の意見を踏まえ、次回委員会で意見交換を継続する。

主な意見は以下の通り。

- ・河川レンジャー活動要領にも記載されているが、「住民の河川にかかわるニーズを把握する取り組み」が活動に位置づけられている。こういった活動も取り組んでいくということが解るように記載していかないといけないのではないか。
- ・「顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズ」について、こちらに記載されているために、河川レンジャーが「そうしなければならない」というものではなく、住民と河川管理者との接点に立ち、こういったニーズがあることを意識して活動の中に取り入れていただくという意味合いではないか。
- ⇒河川レンジャーはいい川づくりを意識してそれぞれが独自の活動に取り組んでいる。レンジャー活動は河川管理者に寄せられたニーズに対して直接的に対応するものではないことを河川事務所職員も意識しておく必要がある。
- ⇒一方、河川レンジャーサイドとして、河川レンジャーは住民と行政のつなぎ役であるということを流域連携支援室から誤解のないように伝えていくことも大事である。
- ・「顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズを明示し」（資料1 ページ右下）について、「明示し」の表現を『念頭に』や『意識し』等の文言にした方がこれまでの意見交換の流れからすると当てはまるのではないか。
- ・「ニーズに関する取り組み」（資料2 ページ右下）について、表現を『ニーズを把握する取り組み』等の文言にした方がこれまでの意見交換の流れからすると当てはまるのではないか。
- ・「顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズ」（資料3 ページ：右）について、固定化しないように、どの段階の委員会で更新していくのか等、どのように運用していくかの検討が必要である。

## (4) その他

### 1) 河川レンジャーレポート Vol. 38 発行について

- 紙面構成について、裏面の活用を行い、河川レンジャーに関する情報発信の充実させていくこと。

以上

■第58回 河川レンジャー制度運営委員会 (2019. 10. 31) 議事録

◆出席：中谷委員、北井委員、山崎委員、堀田委員

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、定刻前でございますが、委員の方、それから河川レンジャーの方もおそろいになりましたので、始めさせていただきますと思います。</li> <li>・本日は、お忙しい中、河川レンジャー制度運営委員会にご出席をいただきまして、ありがとうございます。それでは、今から第58回河川レンジャー制度運営委員会を開催いたします。</li> <li>・私は、本日の司会進行を務めます、委員会事務局、河川財団近畿事務所の中西と申します。よろしくお願いいたします。</li> <li>・本日の委員会でございますが、委員の出席が4名となっております。1名、平山委員がご欠席でございます。委員総数5名の過半数以上の出席を賜っておりますので、委員会規約第8条第2項により、この委員会の成立を報告いたします。</li> <li>・次に、お手元の配布資料のご確認をお願いいたします。まず、左側にA4版を固めておりまして、議事次第、委員名簿、続いて本資料としまして資料-1から資料-7まで。そのうち、資料6がA3版になっておりますので右側に置いてございます。あと、参考資料としまして3種類、参考資料-1から参考資料-3まで。それから、委員の皆様には、最後に「ヘッドオブ瀬田混成クルー参加大学」というタイトルのついたペーパーを1枚お配りしております。これは、近藤河川レンジャーがきょう都合によりご欠席ですが、今後の活動に向けた状況報告のペーパーとなっております。資料の過不足等ございましたら、随時お申し出ください。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 委員紹介	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続きまして、委員のご紹介をさせていただきます。委員紹介は私からさせていただきます。</li> <li>・まず、委員長の中谷委員です。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中谷です。よろしくお願いいたします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それから、今回初めてご出席を賜りました山崎委員でございます。</li> </ul>
	山崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山崎です。よろしくお願いいたします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それから、堀田委員でございます。</li> </ul>
	堀田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堀田でございます。よろしくお願いいたします。</li> </ul>

	△中西	・それから、北井委員でございます。
	北井	・北井です。お願いいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。委員名簿は議事次第の次のペーパーにございますので、ご確認ください。</li> <li>・本日、平山委員におかれましては、公務と重なっております、欠席されております。</li> <li>・委員名簿の裏面には事務局の名簿を載せております。</li> <li>・本日の議事でございますが、議事次第の3から6までを予定しております。閉会は16時30分の予定でございます。また、閉会后、河川レンジャーの方、一般傍聴の方には退室いただきまして、委員の皆様におかれましては引き続き非公開審議を予定させていただいております。長時間にわたりますけれども、何とぞよろしくお願いいたします。</li> <li>・それでは、改めまして、これ以降の議事進行は中谷委員長にお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。</li> </ul>

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (1) 第57回河川レンジャー制度運営委員会の議事録について	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、次第にのっとりまして進めさせていただきます。</li> <li>・まず報告事項ですが、(1)として前回第57回運営委員会の議事録についてということで事務局から報告をお願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうしましたら、資料-1及び資料-2が前回57回の議事要旨と議事録になります。</li> <li>・まず、資料-1の議事要旨をご確認ください。前回は、主には委員長・副委員長の選出、それ以降の委員会の動き、審議ということでは河川レンジャーの年間計画の承認について、それから河川レンジャー活動の視点の位置づけについてといったところを意見交換させていただきました。</li> <li>・その中で、新規河川レンジャーの応募への対応について経過を報告しまして、新規河川レンジャーの応募と審査のタイミングについて文章化して今回の委員会でご報告するという事になっておりますので、この後にご報告させていただきます。</li> <li>・それ以外につきましては事前に確認をいただいておりますので、特に質問等がございましたらお願いしたいと思います。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。</li> <li>・前回の要旨の中にもありますとおり、最後の意見交換の部分ですが、活動の視点の位置づけについては最近の運営委員会で議論していますが、これは本日も後ほど意見交換のパートでお願いしたいと思います。それから、新しい応募があった場合も次の資料-3で説明していただくとい</li> </ul>

		<p>うことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それで、前からの委員は前回の記録にもう既に目を通していただいていますので多分特段ないと思いますが、何かありましたらおっしゃってください。</li> <li>・では、次のパートに進めさせていただきます。</li> </ul>
--	--	---

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (2) 新規琵琶湖河川レンジャーの応募受付と審査実施について	中谷  △中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、報告事項の(2)の新規レンジャーの受付とその審査についてということで説明をお願いできますか。</li> <li>・では、A4横長の資料-3をご確認ください。「新規琵琶湖河川レンジャーの応募受付と審査実施について」というタイトルでございます。</li> <li>・前回第57回の委員会におきまして、新規河川レンジャーの募集に関しまして、応募期間と審査のタイミングと一定の運用ルール等の再整理をしておきましょうということで今回整理をしております。</li> <li>・枠囲みの中に考え方を3つ書いておりますが、まず考え方①は「琵琶湖河川レンジャーは、必要に応じて募集する。募集期間は、必要な任命数が得られるまでの任意の期間とする。」ということで、現在も河川レンジャーのホームページでは絶えず「募集中」というようなバナーを上げて募集しているところでございます。</li> <li>・考え方②でございますが、河川レンジャーの応募があったときの審査はこの制度運営委員会になっておりまして、「審査は、応募があった場合、年間3回開催される『河川レンジャー制度運営委員会』（以下：委員会）において、非公開で実施する。」と。これはあたり前のことかもしれませんが、規約どおりのことです。</li> <li>・考え方③は「応募は、直近の委員会開催2週間前までに申請があった者に対して受け付け、事務局内手続きを行い、受理する。直近の委員会開催まで2週間を切った後に申請があった場合は、次回委員会での審査に向けた受け付けとし、事務局内手続きを行い、受理する。」ということで、いずれも受理しますが、この委員会の直近で応募があった場合、事務所への説明ですとか委員長・副委員長への説明もせずいきなり審査となりますので、2週間は余裕を見て、その直近2週間に来たものは次回の委員会に回すというような運用ルールにしてはどうかということで整理してまいりました。</li> <li>・それを図にしたものが下の工程表になっております。募集期間というのは、先ほどの説明のとおり、任意の期間ということで。2週間前までの応募、2週間未満の応募で審査のタイミングがどうなるかということで、これは6月と10月と2月に委員会が開催された場合という表になっ</li> </ul>



		<p>ておりますが、ここは日程調整の都合によって動くものでございますので、適宜そのあたりは変わってきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明としては以上でございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・今ほど説明をいただきましたが、まず必要な任命数というのは現段階では4名ですね。</li> </ul>
	△奥野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうです。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4名ということで、受け付けは続けましょうと。</li> <li>・それで、チャートを書いてもらっていますが、このとおりに動けるとは限りませんが、基本線はこういうことで押さえておいて、事務的に必要な時間を取り、次の運営委員会で審査をするというような手順になると思います。2週間とありましたが、運営委員会の日程調整はかなり早い段階でもらっていますので、こういう方向でやむなしかと。例えば、きょうの1週間前に応募があっても次の委員会に回ってしまうということで。そこは事務手続のぐあいにもよりで、「では、13日前ではだめなのか」的なことがあったりするかもしれないですけども、数が確保できるのであれば、早く入れればいいと思いますので、その辺は臨機に対応して。基本線はこういうふうに整理していただいたので、今言いましたようなぎりぎりのところについては随時弾力的に支援室と打ち合わせしてやればいいかなと思います。</li> <li>・委員の皆様からご意見はどうでしょうか。はっきり書いておけばいいのではというようなことがありましたら。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の委員会のときに直前応募があって、それで一回整理しておかないといけないなという話になったので整理していただいたのですが、これはこれで共有できたかなというふうに思っています。</li> <li>・ただ、年度末にかけての場合、活動期間も説明していただかないとだめだなと思って。この図を見ていたら、年度末の2月の委員会で採用された場合、あと数カ月ですけども、それも2年の活動期間の1年に入ってしまうので、「実質1年の活動です」など、丁寧に対応していただいて。ふえるのが何よりだと思いますが、「2年と書いてあるのに」という気持ちが多分あると思うので、これからはそのあたりも意識して来られた方には対応いただけたらなというふうに思います。この2月を逃したら次が6月になってしまうので、そういうのも含めて調整していただくことになるのかなと思いつながりながら拝見しておりました。4月早々に委員会があると一番いいのですが、そういうわけにもいかないの、ご配慮をお願いしたいと思います。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。今の北井委員からのお話も踏まえて、できるだけ人数が確保できる、うまく活動が進められるという方向で進めていき</li> </ul>

		<p>ましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・では、このパートはこういうことでよろしいですか。一旦こういう整理にさせていただきます。</li> </ul>
--	--	---

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (3) 第1回琵琶湖河川レンジャー勉強会開催報告	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、3番目の報告事項ですが、レンジャーの勉強会を開いていただきましたので、それについて説明をお願いします。</li> </ul>
	M松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局の松岡と申します。よろしくお願いたします。</li> <li>・それでは、資料-4をごらんください。</li> <li>・この河川レンジャー勉強会ですけれども、昨年度も開催しておりまして、昨年度は水防災に関する勉強会を1度開催させていただきました。今年度は事務局としましては2回の開催を考えておりまして、そのうち1回目をこの9月に開催させていただきました。</li> <li>・資料の上段ですが、「～河川の基礎知識と水辺の安全～」というテーマで開催をさせていただきました。</li> <li>・目的としましては、河川レンジャーが地域とつながって行動に起こされる場合は主に水辺での活動が多いということで、地域の方が安全に活動できるように、つなぎ役である河川レンジャーが水辺に内在する危険性について改めてこういった場で共通認識を持って今後の活動につなげていっていただければという思いから開催させていただきました。</li> <li>・2番目の概要でございますけれども、日時が9月18日、場所はウォーターステーション琵琶で開催をさせていただきました。</li> <li>・研修内容としましては、まずI部が「瀬田川を知る」というテーマで、現在の瀬田川に関しまして、日々管理いただいている職員の方に瀬田川の概要と瀬田川洗堰の施設概要についてご講義をいただいたと。第II部は「水辺の安全活動講習」ということで、川に学ぶ体験活動協議会さんがリスクマネジメント講座というプログラムをお持ちでございまして、今回の我々の目的に合致するのではということで、このプログラムを活用して開催をさせていただいたということでございます。</li> <li>・ご参加においては、河川レンジャーの方3名、あとウォーターステーション琵琶をご利用いただいている市民団体の方にもお声がけをして、総数としては15名にご参加いただいたということでございます。</li> <li>・3の「結果」というところですがけれども、まずI部の「瀬田川を知る」では、申し上げましたとおり、瀬田川の維持管理や瀬田川洗堰の操作を担当いただいている職員の方から、平時の管理、また緊急時の対応等について個々ご講義をいただいたということでございます。</li> <li>・第II部でございますけれども、こちらはリスクマネジメントということ</li> </ul>

		<p>で「水辺の危険箇所を学ぶ」と「水辺の事故を防ぐ考え方を身につける」という2つのポイントを主に実施させていただきました。教材としましては、映像の教材ですとか実際の事故事例から「どうすればこういう事故が起きなかったのか」「どうすれば未然に防ぐことができたのか」というところを参加の皆さんで意見交換等しまして、その中で共通認識を持って、今後の活動に生かしていこうということとさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめとしましては、今回のこの取り組みですけれども、いいきっかけになったのではというふうに事務局としては考えておまして、今後もこの「水辺の安全」というテーマを視点の角度を変えながらまた企画させていただきたいと考えております。また、今回I部は「瀬田川を知る」ということで、河川事務所さん、また河川レンジャーの方が主に活動されているフィールドは野洲川もございますので、その野洲川をテーマにした企画も設けていきたいというふうに考えております。</li> <li>・以上です。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございました。今の報告、説明についてご質問、ご意見はいかがでしょうか。</li> <li>・今の勉強会についてレンジャーから何か感想、意見等ありましたら次の報告の中で触れていただければいいかなと思いますので、よろしくお願ひします。</li> <li>・それでは、ないようでしたら、報告事項は以上までとさせていただきます。</li> </ul>

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. 審議 (1) 河川レンジャー中間活動報告	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次は、審議事項、レンジャーさんの中間活動報告に移りますので、準備をお願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうしましたら、4番目の審議ということで河川レンジャー中間報告をさせていただきます。資料は、資料-5になります。</li> <li>・今年度の河川レンジャーさんは3名おられます。2名のレンジャーについては生の声を聞いていただき、近藤レンジャーに関しましては事務局から報告させていただきます。その後、審議と言ったら大変な言葉に聞こえますけれども、いろいろ助言や感想等をいただけたらと思います。また、中間と言いながら、まだ活動が半分過ぎているというわけではなく、後半に活動が固まっている方もいらっしゃいますので、そのあたりも踏まえて聞いていただけたらと思います。</li> <li>・それでは、河川レンジャーの方には10分程度発表を行っていただきまして、審議をお一人当たり15分程度で考えてございます。時間が参りました。</li> </ul>

		<p>たらベルを鳴らして終わりとさせていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、委員長の進行で進めたいと思います。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• はい、わかりました。それでは、根木山さん、お願いします。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>• こんにちは。河川レンジャーの根木山です。ことしで7年目になります。よろしく願いいたします。</li> <li>• 中間活動ですけれども、新しい委員の方もいらっしゃるので、少しこれまでの経過も踏まえながらお話しさせていただけたらなと思っております。</li> <li>• 私は、野洲川の下流部、主に守山市中洲学区で「野洲川の川守りをつなぐ」というテーマで活動しております。</li> <li>• これは、提出させていただいている年間計画の中でこういった背景、課題、目的を持っているのかを記載している部分です。</li> <li>• 私は、住民が野洲川にかかわって利用するとともに保全活動にも住民がかかわっているという姿を目指して、継続して野洲川の下流部で活動しております。御存じのとおり、下流部は旧北流・南流から今の放水路に大改修されて、ことし40周年ということで、地元の住民さんの中にもいろいろな思いがこの40年間であるという中で活動をさせていただいております。私がレンジャーになってからも親水公園が守山市と国交省のほうで整備されたということがあって、そういったものを生かしながら利用と保全に参加する住民をふやしていきたいと思って活動をしています。</li> <li>• 直近の課題としては親水公園の利用が少ないということがあって、それを何とかしたいというのがことしの目標の一つになっています。あと、「樹木伐採」というテーマがありまして、野洲川の河道内に樹木が繁茂していて、それに対する住民からの不安視する声が絶えないという中で、それをどう考えていくのかということも2年ほど前から取り組んでおりまして、大きくはその2点について活動させていただいております。</li> <li>• こちらは、昨年度ですけれども、中洲学区に5つの自治会がありまして、その自治会長さんにヒアリングをしたときの結果を簡単にまとめたものです。「中洲は一つ」という標語あるのですが、5人の自治会長さんにお話を聞くと、それぞれに考え方が違っておりました。例えば、Aさんのように、野洲川を守山市の宝にしていきたく、大改修を受け入れた先輩たちの思いを語り継ぎたいというような比較的前向きな考えを持っている自治会長さんもいらっしゃれば、Cさんのように、河道内に土砂が堆積して樹木が繁茂していて、40年前の約束が守られていないということをおっしゃるような自治会長さんもいらっしゃって、5つの自治会でもいろんな思いがせめぎ合っている中で地域としては行政と向かい</li> </ul>

	<p>合っているということがよくわかりました。河川レンジャーとしては、この地域の中に思い切って足を突っ込んで行って、地域の方々の思いを引き受けながら行政と住民とのつなぎ役をしていく必要があるなということを感じております。今年度は、そういった思いも引き受けながら幾つかのプログラムをさせていただいております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間報告なので、掲げた目標について今どういう状況かということを中心に報告させていただいております。</li> <li>・ これは書面を拡大していますが、1つは、親水公園の利用を促進するために2つの取り組みを支援させていただいております。</li> <li>・ これは継続ですが、発足からサポートしてきた住民グループによる「川遊びオープンデイ」というものをことしも支援させていただいて、1回は台風で中止になったのですが、2回実施して78名の参加がありました。</li> <li>・ あと、今年度は、川遊びだけじゃなくて、もうすこし利用をふやしたいという学区長さんの思いも引き受けながら、「草サッカー」という種目で、気持ちのいい芝生の広場がありますので、そこでみんなでボール蹴りをするというプログラムを試行しております。4回実施して105名の参加がありました。これは、川遊びをしているグループとはまた別の住民さんも半数ぐらい参加してくださっているので、草サッカーをすることで違った層の参加を得られているなという感触があります。それから、水上レンジャーが主に企画している野洲川クリーン作戦に合わせて草サッカーを正式にやることを認めてほしいということを守山市に要請したところ、ありがたいことにオーケーをいただいたので、今後は大きくPRしながら利用を進めていけるのかなと思っています。</li> <li>・ 実際どんな様子かということですがけれども、川遊びはこんな感じで、僕一人で参加者を引き受けるのではなくて、一応住民のグループを組織し、その人たちに運営係になっていただいて、役割分担しながら、そのメンバー以外の人たちも参加していただいて運営しているというような形になります。支援室からも支援をいただいたり、あと、守山市からも助成金をいただいて、謝金を払って見守りの指導員に来てもらったりということもしております。川で遊ぶのは子供たちも非常に楽しそうだし、大人たちも楽しそうです。ことしは、メンバーから「エビがたくさんとれるけど食べられるのかな？」という話があって、思い切って素揚げにして食べたらとてもおいしくて、みんな盛り上がりました。そういったこともなかなかできない経験だからと言って、初めてきたお母さん方も喜んでくださっていました。</li> <li>・ 草サッカーは、動画をつくったので動かないかな。動かないですね。なしにします。こんな感じで、サッカーと言うほどのことじゃなく、本当に芝生の広場でボール蹴りをしている程度なので芝生を傷めることも</li> </ul>
--	--

ないですし、公園の管理者からも今回オーケーをもらえたので、今後は進めていきたいなと思っています。地元の方が年5回ぐらい芝生や草原の草刈りをしてきれいにしてくださっているんですけども、なかなか利用がないので、地元の学区長も口惜しい感じでおっしゃっていたので、こういった利用もできたらいいなと思っています。今度、11月23日に水上レンジャーが企画されているクリーン作戦でもこの種目をイベント部分でさせていただいて、清掃活動、保全活動と利用というのをあわせて住民の方々に体験していただけるようにしていきたいなと思っています。

- ・2つ目の課題は、野洲川の樹木のことです。
- ・これは2年前に河川管理者さんが提供していた画像ですけども、わかりやすいのはこの真ん中の中州になっている部分にすごく繁茂していて、ここに対する地元住民からの声が多いということです。
- ・これまでのところ、住民グループによる伐採活動を支援しています。これは川遊びをしているグループですけども、去年までで2回樹木伐採をしていただきました。去年は3回活動して、「13本伐採して396kgありました」と数もはかってくださったので、子供たちも張り切ってやってくれました。
- ・あと、去年始めたのは、許可を得て参加している方々の休日施行、休日に合同で作業するというのを管理者さんと一緒に行いました。私も参加させていただいて、特に、右下にある、車座で情報交換をするという機会があって、お話を直接聞くことができました。そのときに出てきた声を聞くと、思った以上にニーズはあるなど。まきの利用が多いですけども、キノコ栽培なんていうこともありました。
- ・皆さん、立派なチェーンソーを持ってこられるんですけども、技術的には稚拙でして、下手するとけがをする、事故を起こすなという感じがあったので、今後はそこをどう安全にやっていただくかが課題かなというふうなことを管理者さんともお話しさせていただいています。あと、「もう勝手にやらせてくれ」みたいな感じの人が多いいのかなと思っていたら、案外、「1人でやると不安なので、こうやってみんなできると安心だ」とか、そういった声が結構多かったので、今後も合同作業をやっていこうと考えています。
- ・あと、実は、公募伐採とは別に、3カ年緊急対策ということで管理者さんのほうで施行される伐採があります。これが今年度に入ってから新しい情勢です。多分この3年で一回きれいになると思うのですが、長い目で見ると、一回きれいにした後、もう一回茂ってくると思うので、そこをどういうふうに維持管理していくのかが二、三年先を見据えたときの課題になってくるのかなと思っています、そこに対しても、地元の自治

		<p>会さんとも話をしながら、何かできることがないかを考えていきたいと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度に関しては、11月から公募伐採が始まります。そこに関しては管理者さんとも情報交換をしまして、休日合同伐採を2回ぐらいさせていただくのと、あと参加者間の情報交換のツールを僕のほうでつくるという形で協力させていただくということでお話ししております。</li> <li>・そんな感じで報告させていただきました。ありがとうございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。それでは、委員の皆様から質問、ご意見等々、何でも結構ですから、どうぞ発言いただければと思います。</li> </ul>
	山崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表、ありがとうございます。この公募伐採ですけれども、募集は結構たくさんあるのですか。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集自体は管理者のほうでされていらっしゃるんですが、昨年度だと、たしか13組の応募があって、休日のイベントに8人の方が参加されて、お出合いしてお話しすることができたというのが去年の実績になっています。多分、少しずつふえてきているような状況だとお伺いしています。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふえてきている段階で、さっきも話があったけれども、3年でスカッときれいになってしまうというの。所長、その辺はどうですか。</li> </ul>
	堀田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とは言いつつ、先ほどもおっしゃっていましたが、切っても再繁茂するという部分もあります。</li> <li>・それで、この樹木伐採については維持費が潤沢にないというか、切迫しているというのが、国だけじゃなくて、県もそうでしょうし、全国的な流れですので、いかに、行政だけでなく、住民や民間の方々のお力を借りながら適正に管理していくかというところがやはり重要になってくるのかなと思います。先ほどお話の中で再繁茂対策についていろいろと検討したいということがありましたけれども、引き続き我々としてもそれは考えていかなければいけないことですし、レンジャー中心に、そういった対策にいいものがあれば、また河川管理者のほうにご意見、ご助言いただければ非常に助かるかなというふうに思います。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・再繁茂するやつが出てくると、多分初めは細い。だから、取りたいという人のニーズが、ほだ木にするのに10cmぐらいは欲しいとか、もうそこは随分勝手な話だけれども、そういうサイクルを考えると、一定そのグループに任せてもいい場所もあるのかもしれないですね。そういうところで持続的にやってくださいよという一定の約束を取りつけといて、例えば水辺に近いところは管理者でやっていただくなど。せっかく定着しつつあるので、急にクリアにならないけれども、持続的に順番に手入れができていっているみたいなのところがあってもいいのかもしれない。</li> <li>・そういう面では、自分自身が動かれるのはもちろんですが、言葉は悪い</li> </ul>

		<p>ですが、操って動かしているみたいなのが大変頼もしいなと思って聞いておりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにいかがでしょうか。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前も聞いたかもしれませんが、川遊びの参加者以外の方が草サッカーに来られているということだったので川に集まってくる人の範囲がふえているのかなと思ったんですが、今年度やってみたときは何を見てこられている方が多かったですか。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今はまだ試行という感じで、余り大っぴらにアピールできない状態だったので基本的にはロコミでやっているんですけども、ただ、川遊びと違うのは、割と「サッカーは好きだけれども、サッカークラブに入るのはちょっと」という方が。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すこし運動させたいけど」みたいなニーズが。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。あと、芝生の上でできるので、気持ちよくできると。それから、お父さん方も割と来てくださって、一人のお父さんがお友達も連れて来てくれるみたいな感じで今のところは参加していただいています。</li> <li>・本当は守山市内、割と今は守山市外からも来ていただいている感じですけども、今後は多分広告とかチラシ配布ができるようになると思うので、そうなると、違ってくるかもしれないなというふうに思っています。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。何かまた広がるのかもしれないと思って。</li> <li>・さっき出た伐採の話も、意見交換の時間で聞かれていることというのは案外重要なことが多いなと思って聞いていました。どういう種類の方がこういう機会だと来やすいとか、積み重ねで貴重な情報なんじゃないかなと思いついて伺っていましたし、新たな試みというか、また新しいスタイルで伐採作業をされていくというモデルを一個ずつつくっていらっしゃるなと思っています。</li> <li>・しかも、川遊びのグループの方が今年度も冬場の活動をしてくださるので、「夏場は川遊びでよく活動するけれども、冬は特に活動がない」とかいうのも、結構達成感がある感じで、去年の取り組みを見ていたら本当に楽しそうだなと思って、そういう意味では、年間を通じて川を見てくださいというか、そんなかわりにもなっていて、いい接点なのかなというふうに伺っていました。後半もお願いします。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・一応、話題としては、多分来年6月にクリーン作戦をするときはこの中洲はきれいになっていて、出てきているのを、Eボートなどを出してもらって、みんなでライフジャケットを着て渡って木を切りに行くというのは子供たちも楽しいかなと考えていて。Eボートを自分たちで用意するのは大変ですけども、もし河川管理者と協力できるのであれば、</li> </ul>



		<p>そういうこともやってもいいのかなというのを思ったりします。</p>
	山崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>• もう一つだけ。先ほど発表の中で、今の伐採の関係で、チェーンソーを使うのが上手じゃなさそうな感じの方がおられるというお話があったんですけども、実際、講習じゃないけれども、「これはこうやって使うんですよ」というような指導はこれまでにされたんですか。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実際にできていることは全くなくて、今年度は責任を持ったことまではまだできないかなとは思っています。県の森林センターで県民が参加できる技術講習会があるということは情報収集できているので、参加者さんとの連絡ツールさえできれば、そういったことを情報として提供できるかなというふうに思っています。</li> <li>• あと、責任を持った講習はできませんが、「受け口をつくってから追口で切っていくんだよ」という基本的なことが本当にわかっていच्छゃらない。要は、おうちでたまにするためだけのチェーンソー使いしかしたことがなくて、立ち木を倒木するという経験をされていच्छゃらないので、一緒に作業すればそれをお伝えできますし、それだけでも事故の可能性が。切るときにこのぐらいの丸太をいきなりこうやって。それで途中で切れなくなって悪戦苦闘しているみたいな姿が見受けられて、これは事故を起こすなという感じがあったので、「順番として、受け口をつくってからこの高さで追口を切るんですよ」ぐらいのことは僕でもお伝えできるので、そのぐらいのことでもできることから始めたいなというふうに思っています。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• そうですね。森林センターとかに頼んで出張講義に来てもらうというのものもあるかもしれない。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 資金だけ調達できれば、森林センターも外部の人に委託されていच्छゃるので、その方は紹介できますよと教えていただいているので、何かそういう資金を川遊びのグループも守山市の助成金を取ってもらっているんですけども、そういう新しいグループができて、資金をその住民グループで取っていただければ、将来的にはそういう調整はできるかなと思っています。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• そうですね。そういう活動の中で「川も大事だけれども、さかのぼっていくと、山も大事」というつながりでどこかの森林組合にくつついちゃうとかすると、お互いまた、「そっちの人もこっちへ出かけてきて、こっちもそっちへ出かけていく」とか、そういう展開もあるかもしれないなと思っていて。</li> <li>• ほかにいかがでしょうか。</li> </ul>
	堀田	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 先ほどのご発表の中で、学区の自治会長さんにヒアリングされ、樹木伐採の後に意見交換をされて話を聞いたという話がありまして、きょう後半のほうに意見交換があると思いますけれども、まさに住民のニーズを</li> </ul>

		<p>把握する活動について実践されているというふうに思いながら聞いていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• それで、自治会長に話を聞いたときに土砂堆積ということがあって、40年前の約束が守られてないんじゃないのかというようなご意見があったという話だったんですけども、実際は、40年前に通水された放水路は実は大きく土砂堆積の傾向にはなくて、もともと考えていた流下能力は今のところキープされているということですが、こうやって話を聞いていただいて、住民の方でそのように思っている方がいるということ聞き取っていただいて、こうやって我々河川管理者がそれを把握すると。それに対して、また必要であればその住民の方にきちんと説明することです。うまく回るようにもなりますので、引き続き、こういった地域の方々の声を、吸い上げるといいますか、聞き取る活動を続けていただければ河川管理者としても非常に助かりますので、よろしくお願いいたします。</li> </ul>
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ありがとうございます。</li> </ul>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 例えば、車座でやったときに出た意見とかは、箇条書き的にでもいいので、報告してもらって。</li> </ul>
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実は、河川管理者の事業の中で記録はきっちり。逆に、僕は聞き役で協力させていただいた程度なので。</li> </ul>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>• そうですか。そこはできているんですね。</li> </ul>
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> <li>• はい。多分、受託業者さんが記録されて、管理者さんのほうに納めていらっしゃると思います。僕も一応共有させていただいていますけれども、あります。</li> </ul>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>• はい、ありがとうございます。</li> <li>• 今おっしゃったけれども、正確な情報をしっかり伝えておくというのが大事だと思っていて、「たまっている、たまっている」と言うけれども、実は両側が掘れて深くなっているだけで、そこはもとのままみたいなこともよくある話です。</li> </ul>
堀田		<ul style="list-style-type: none"> <li>• はい。</li> </ul>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>• そうでしたら、そういう調子で引き続き頑張ってください。よろしくお願いいたします。</li> </ul>
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ありがとうございます。</li> </ul>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ありがとうございます。</li> </ul>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>• それでは、続いて水上レンジャー、お願いします。</li> </ul>
△中西		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ベルの補足ですけども、10分のうち、9分になったら予鈴を1鈴、10分で2鈴鳴らさせていただきます。</li> </ul>
R水上		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 私は、お手元の資料ー5の中間活動報告書で説明をさせていただきます。</li> </ul>

	<p>先ほど根木山さんも言われたように、初めての方がおられるので簡単に私のテーマなどを説明させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初にかたい話になりますが、私は行政の経験がありますので、そちらのほうからどう河川レンジャー活動ができるかということをやっています。河川整備計画の最後に「地域住民と河川管理者とが連携しながら河川整備を進めていく上で、住民と河川管理者との橋渡し役となることも期待される。」と書いています。それを受けて、橋渡し役、直接のつなぎ役ということで、ここにテーマを書いていますけれども、住民と行政が一緒やりましょうということで「住民と行政がともに考える川づくり」をテーマにしています。最初は「川づくりを考える」ということを考えましたが、ことしは一步進めて、住民と行政が一緒に活動しましょう、一緒に汗を流しましょうということでつなぎ役をやっています。</li> <li>・実施目的としましては、先ほども言いましたけれども、最終的には住民と行政が連携した住民参加の川づくりが実現するように進めています。</li> <li>・それで、一度にできませんので、3つのテーマにしています。1つは「地域住民参加の川づくり」。それと、今、企業もCSR活動でいろんなことをやっておられますので、それをつなげられればいいかなということで「企業参加の川づくり」。それから、中学校が過去からいろいろやってきておりますので、それを継続するために「地元中学校参加の川づくり」。</li> <li>・ことしの目標は、1つは「企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり」。これは、瀬田川の場合はみんな一緒になってやるんですけれども、野洲川の場合は、行政、企業、地元の方がばらばらで河川清掃をやっていました。そこを一緒に汗を流していい川づくりをしましょうということで一昨年から調整しまして、昨年実施しました。ことしは、いろんな思いを聞いています。例えば、もう少し時間をふやしたらいいとか、あるいはもう少し参加者をふやしたらどうかとか、水の中もやったらどうかとか、いろんなことをお聞きしましたので、それを踏まえてバージョンアップするような形でことしは活動しています。詳しくは後で説明させていただきます。</li> <li>・もう一つは、2番の「地元中学校参加の川づくり」。これは、野洲川河口部にヨシ帯を琵琶湖河川事務所が整備しました。それがどのようなになっているかというのは当然国交省のほうで専門家も入れてモニタリングされていますけれども、住民目線、若い人、未来を担う中学生の目線でもモニタリングをしようということで、行政とのつなぎ役として河川レンジャー活動をしています。</li> <li>・7ページの活動内容の計画ですけれども、1つは、先ほど言いました、ばらばらだった清掃活動をみんなで一緒にやりましょうということで、</li> </ul>
--	--

これは10月に計画しました。企業、地元住民、行政に何度も足を運んでヒアリングをして、ようやく10月に実施しようとしたのですが、残念ながら、台風19号が来まして、中止しました。ところが、河川清掃はいいことだから続けてくれという皆さんの思いもありましたので、再度調整をして、11月23日の勤労感謝の日に実施する予定です。たしかこの日は晴れの特異日ということと、もう一つ、大阪管区気象台のデータを調べると、大体6割から7割晴れると。なおかつ、11月は台風が過去に1回しか来てないと思いますので、いろいろ考えて、この日で調整しました。今、ほぼ調整が終わっております。

- ・内容ですが、第1部では河川清掃。それから、清掃だけではあれですので、防災のイベントということで、「ベンチかまど」と言って、防災用のかまどで炊き出しをする体験をしてもらおうと。その後、これは希望者ですけれども、そのかまどを囲んでバーベキューみたいなことをしよう。もちろん、河川法に触れないように調整させていただいています。そして、琵琶湖河川事務所の職員と住民の方との交流会も計画しています。これについては、3月ごろになると思いますけれども、また後半で報告させていただきたいと思います。
- ・もう一つの「地元中学校参加の川づくり」につきましては、最初の計画では、やっていることよりも、どういう調整をしているのかということで事前調整について書いておりました。
- ・結果ですが、YRP（意見交換会）を開催しました。職員も変わりましたし、担当の先生も1年目ぐらいでしたので、私からまず野洲川河口部ヨシ帯の説明と、それから、調査の目的をちゃんとしとかなないとだめだと先生からも言われましたので、その調査の経緯などを説明して意見交換をしました。このときに、どういうことをやっていこうかという皆さんの思いを聞いています。
- ・それから、現地で春の調査をしました。それはモニタリング調査ということで、そのときに私から調査内容や方法を説明して、全体の進行を調整しています。調査項目は、継続的に、ヨシ帯の面積調査と魚類調査とヤナギの抑制調査です。ヤナギの抑制調査は、先ほどの伐木じゃないですけれども、ヤナギの皮を剥いたり、しょうゆをつけたり、塩を塗ったりして抑制ができないかという調査をしています。あと、新たに左岸のほうで定点観測を始めました。
- ・そして、きのうは秋季調査を実施しました。特に、先ほど事務局から報告がありましたように、リスクマネジメントの話をお聞きしましたので、安全管理のために水際の深いところにテープを張り、単独で行動しないとか、研修で聞いたお話を生かしていろんなことをやりました。
- ・事前調整のときに言われたのが、モチベーションが非常に下がってきて

	<p>いると。そこでどうするかということで、今回は手法を変えまして、新たにドローンで撮影してみようと。この科学クラブの皆さんは、ロボットが大好きです。なので、ドローンという新しい機器を使って、航空写真から植生図を作成したり、面積も算出してみようということ新しい試みをしました。きのう現地でそれを使って、本当に植物の種類が合っているのか、あるいは面積が合っているのかということで台形法による面積調査をして、それからヤナギの抑制調査もしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加は12名でした。これまでヤナギの調査のときは数名しか参加しなかったものですから、モチベーションを上げるために皆さんのいろんな思いを聞いて、12名参加となりました。</li> <li>・今後、発表会の調整をやっていきます。きょうはまだ中間しか報告できませんので、またご意見をいただきたいと思います。</li> <li>・あと、企業をどういうふうにつないでいったかということを書いてあります。特にことしは社長さんも出てこられて、いろんな関係づくりができたと思っています。それから、企業・地元住民・行政がともに活動する河川清掃は再調整をしておりますので、これはぜひやっていきたいと思っています。</li> <li>・地域住民につきましては、先ほど言いましたように中止になったんですけども、これも再調整をしているところです。</li> <li>・立命館守山中学校は、先ほど言いましたように、顧問の先生が変わって生徒たちの活動に対するモチベーションが下がりましたので、ロボットに負けないような、ドローンも使ってやっていきたいと考えています。</li> <li>・管理者ですが、琵琶湖河川事務所と河川レンジャーの活動についても考え、活動する関係づくりができたと考えております。</li> <li>・あと、工程表ですけども、先ほど説明しましたように後半にずれてきていまして、そこは頑張っていきたいと思っています。工程表は10ページのように修正しております。</li> <li>・最後になりますが、これ以外に、ことし、きょう北井委員も来ておられますけれども、全国の川づくりで河川レンジャーの活動について説明をさせていただいています。私の切り口が「行政と住民をつなぐ」ということで、これについて全国から理解していただきまして、特に参議院の嘉田さんや学識者の先生、いろんな方から理解していただきましたので、河川レンジャーの活動として今後そういうことでやっていけるという自信ができました。これは番外編ですけども、報告だけさせていただきます。</li> <li>・以上です。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。今、発表いただきましたが、水上さんの活動について、質問なり、ご意見なり、お伺いします。どなたからで</li> </ul>

		も結構です。どうぞご発言ください。
	山崎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表、ありがとうございます。今、河川レンジャーの仕事が住民の方々と行政とをつなぐというところでお話があったと思うんですけども、特に今回は企業の方を巻き込んだ取り組みをされたと思うんですが、その辺は「大きな会社があるから」というので決め打ちでそこに声かけに行かれたのか、とりあえず沿川のいろんなところに声かけをされたのか、どんな感じだったんでしょうか。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それは、まず、滋賀銀行とか、大手のいろんな、C S R活動、そういう社会貢献をされているところに声をかけたんですけども、だめでした。それで、根木山さんから、根木山さんは私が国交省にいるところからいろんなことをヒアリングされていて、「あそこがいいね」というのを紹介していただきました。それがイマックという会社です。それは本当に地元の会社で、100名ぐらいですかね。例の「下町ロケット」じゃないですが、あのような感じで、LEDをつくっておられるところです。社長さんも地域のいろんなところへ、例えば小学生を工場に見学させるとか、いかだ下りに参加したとか、非常に熱心で、なおかつ春と秋に野洲川の河川清掃をやっておられたので、そこに「ほかとも一緒にどうですか」と聞きに行ったら、それをどうやっていいかわからないと言われたんです。それで、行政は行政でやっていて、行政の職員の方が「ばらばらだけど、どうや」と言われたものですから、その思いを聞いて「そしたら一緒にやりましょう」と。あと、一緒にするのであれば自治会にも声をかけましょうということで。</li> <li>・ただ、気をつけたのは、ノルマ的にかけてしまうと、どうしてもやらせ感がありますので、情報だけ流して、自治会の方は参加できる人だけ参加してくださいと。去年やったときは大体80名。それでもまだ少ないと思う。動員をかけたなら幾らでも集まるんですけども、そこはしないで、本当に「やってやろうか」という人を集めたという形でやらせていただきました。</li> <li>・だから、いろいろ探したけれども、やっぱりやっている人でないとだめです。そこはまさにC S R活動をやっている人だったし、その人の熱い思いもわかりましたので、それでやって。そしたら、河川愛護月間に琵琶湖河川事務所がその人を表彰してくれました。そういうことでうまく信頼関係もできたかなと思います。</li> </ul>
	堀田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月に野洲川のクリーン作戦をされるということ、実は、私も参加するんですけども。その後のバーベキューに出るかどうかはまだわかりませんが、こういった形で、地域住民の方や企業の方と最後に交流をすることによっていろんな話も聞けますし、河川管理者としてもそこでニーズを聞き取ることも可能になるということですので、ぜひこういった取</li> </ul>

		<p>り組みを引き続きお願いしたいなというふうに思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それと、先ほどの質問のご回答の中でもありましたけれども、「実はこういう会社もやっているんだ」というようなことで、我々河川管理者が把握していないだけで、実は地域の中には川が好きでいろんな活動をされている方がもっといるんじゃないかということもあるので、レンジャーさんの活動を通じてそういうところの発掘みたいなものも引き続きしていただければ我々としても非常に助かりますし、それでつながりができれば地域の活性化ですとか川の魅力を高めるための活動が発展していくというようなこともあると思いますので、引き続きよろしくお願いたします。</li> </ul>
	R 水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。どちらかという、私が考えているのは、ロコミと言うんですかね、今集めている人も熱い人ですので、そこからロコミでまたどうかと。例えば企業だったら、イマックさんの隣にJRがあります。そこへ行ったらどうかということで声をかけていただいて行ったんですけども、残念ながら、いろんな活動をされていて。ただ、去年は1人来ていただきました。だから、そういうふうにしてロコミから進めていこうというのは考えています。</li> <li>・もう一点。所長にはぜひ参加してほしいです。所長がおられたら、地元の方は要望事項になってしまう。だから、できるだけそれがないように、前向きに「どうしたらいいか」ということが言えるように私は進行係として進めたいと思っています。そうすると、なにもならない。苦情処理に行くだけになってしまっ。そうならないように頑張りますので、ぜひ参加してください。お願いします。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風で中止・順延になって、清掃の呼びかけをされていて中止するだけというのも大変だと思うんですけども、バーベキューとか、後の予定が複雑なので、再調整等、中止にするに至って結構ご苦労があったんじゃないかなと。さらりとおっしゃったけど、どうだったのかなと思いがながら聞いていました。再調整も順調に決めて、日程も、10月に声をかけていた参加者にも「じゃあ、また11月にしましょうか」と受け入れられている感じですか。</li> </ul>
	R 水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。ただ、社長さんの日程が合わなくて、もう一回調整しました。そしたら、ほかの人も「またやるんか」というような雰囲気でしたけれども、さっき言いましたように、熱い人しか声をかけていませんので、そこは「行ったろうか」という感じになっていると思います。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、社長も絶対出てくださる予定で、一応そういう心づもりでご準備いただいていると。</li> </ul>
	R 水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。ただ、さすがに11月なので、気候も気候なので、グラウンドゴルフや水の中での水生生物調査は縮小して、どちらかという、河川清掃</li> </ul>

	を主にして、防災訓練をやった後、本来の目的である交流会だけは必ずやろうと思っています。
北井	・前回からかまどベンチを使ってされていて、いろんな災害の避難所のニュースを見ていたら、実際に使ってみるといのは大事だなとしみじみ思っていて、いい機会にしてくださるといいなと思います。かまどベンチをつくったけれども、使っていないところとか「実際どうやって使う？」となるところも結構多いという話を聞くので、使った経験のある人がふえるのは何よりだなというふうに思っています。組み合わせで開催されるのは大変でしょうけれども、いい機会をつくられているなと思っています。
R水上	・そうですね。それにはやっぱり行政の支援がないと。河川レンジャー一人ではつくれませんので、今回も琵琶湖河川事務所のほうに材料を出してもらって、指導していただくという形で調整しています。
北井	・かまどベンチの使用の指導？
R水上	・そうです。一からつくるように。もちろん勉強しながらですけども、出張所、現場のほうと一緒にやってくれるような形で調整しています。
北井	・そうですか。つくってからするんですね。
R水上	・そうです。それで、非常食も用意してもらって、それを食べると。その後は自由にバーベキューなりをやってもらう形になりますけれども。
北井	・晴れの情報も集めていらっしゃるので、次は開催できるなと思います。また報告を楽しみにしています。
R水上	・実は、7割は雨が降りますので。雨が降るのはもうどうしようもないですね。
中谷	・はい、ありがとうございます。 ・かまどベンチは、いつつくるんですか。事前につくるんですか。
水上	・それは、もう材料は用意していますので、その当日。
中谷	・当日つくるんですか。
水上	・はい。それで、清掃活動が1時間だったんですが、もう少し延ばしてくれということで1時間半清掃活動をして、その後、2時間か3時間空いていますので、そこでみんなでかまどベンチをつくって非常食を食べるということを少しやらしてもらおうかなと思っています。その間に根木山さんがグラウンドでいろんなお遊びをやっていただけるようにもなっています。楽しいこともやらないといけませんので、楽しいことは根木山さんと連携しながらやっていきたいと思っています。
中谷	・おせっかいな話ですけども、ベンチをつくっていきなり使うというのは大丈夫ですか。
R水上	・去年やっていますので。
中谷	・そうですか。組み立てのやつ。



R水上	・そうそう。
中谷	・了解です。
R水上	・去年は、それを指導する人がいなかったんです。進行する人が。それで失敗したから、ことしは出張所のほうに、国交省の職員の人に全体を仕切ってくれということで頼んで。私は全体を仕切っていますのでそこができないから、その仕切りをやってもらうようにしています。
中谷	・それで、中学生、モチベーションの話がありまして、確かに、ハイテクとか、子供は好きだからいいんですが、ただ、やることでそういうことにくっついてくるというのも大事だけれども、そうやって出た結果を事務所のほうで例えば水辺の国調とか、いう報告書がありますよね。中学生がその部分をやったんだけど、「これはこういうふうな成果としてあるんですよ」みたいな、そういう機会があるといいんじゃないかと。
R水上	・それを言われると思って、きょう午前中に環境課のほうに行き詰めてきました。それで、環境課の人も報告が要るだろうと。まだ所長にも言っていないと思いますけれども、2年前にここで、事務所長にも出てもらって、集まってその報告会をしましたので、それと同じように、来年になりますけれども、2月か3月にやろうということで今調整しています。
中谷	・そうですね。そこも生徒さんたちがちゃんと段取りして、「こういうことをやろう」と、つながるといいですね。
R水上	・そうですね。それを事務所長や職員全員に来てほしいんです。担当だけでなく、できるだけたくさん来てもらって、去年は円卓で意見交換をやりましたので、そういう円卓の意見交換会を。もちろん私がファシリテーターをやりませんが、それをやろうと思っています。
中谷	・それとか、何かの管理者からの報告書の中にまとまったような、例えば冊子とかができるのであれば、そういう結果も載せてもらうとか、何か記録として「琵琶湖河川事務所」というまとまった冊子の中に「生徒さんたちがやった成果がこれですよ」という、そういうのもいいのでは。
R水上	・そうですね。それはご意見として一回検討させていただきます。
中谷	・はい。またぜひ考えていただいて。
R水上	・そして、横にぽっときれいなように入れ込みます。それを入れ込まないと。
中谷	・そうですね。そういうまとまったものが学校に渡るとか図書室にあるとかになると、「うちのがやっているな」みたいな。
R水上	・そうですね。
中谷	・そこにドローンが飛んでいる写真でも載っていれば「これはおもしろそ

		<p>う」とか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、23日がいい天気であることを願いました。ありがとうございました。よろしくお願いします。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の近藤さんの分は、事務局から代理でやっていただく。</li> </ul>
	M松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。近藤さんが急遽ご欠席ということでしたのでご本人のご説明がないんですけれども、事務局から資料ベースでご報告をさせていただきたいと存じます。資料としましては、11ページからが近藤さんの中間活動報告となっております。</li> <li>・まず、近藤さんは「瀬田川流域の水草環境改善のための河川利用者間の交流の場の構築」というテーマで活動をされております。</li> <li>・ご本人が着目されている課題としましては、今、この方は大学生で、ボート部で活動をされておまして、日々瀬田川で練習をされております。そういったボートでの水上利用という視点で、現状の瀬田川は水上利用の盛んな時期には水草が繁茂して利用が困難となることがあるということから、瀬田川の水面利用者、各団体等が連携して環境の改善ができないかということで交流の機会をつくっていききたい、関係づくりをしていききたいということを定めておられます。</li> <li>・ご本人の実施目的としましては、見定められているビジョンとしては2つございまして、瀬田川流域の利用者、利用者団体が相互的に交流を深め、瀬田川流域の環境をよりよくしていく関係性を構築するということ。また、気軽に参加できる催し等を複数団体で行うことによって、なかなか一般だけでは難しいであろう水草除去にも機会があるときに参加してもらえるような環境づくりを行いたいということで取り組まれております。</li> <li>・そのビジョンに対して今年度定められている成果目標としては3つございまして、「複数団体での顔合わせ、意見交流会の開催」、2つ目が「複数団体を巻き込んでの小規模のレースなどの複数回開催し、団体間の協働関係を作り上げる」、そして3つ目に冬季の時期にそういった皆さんとの清掃活動を実施していくということを定められております。</li> <li>・そして、ご本人がおっしゃっている複数団体ですけれども、12ページの下から2段目の活動対象というところをごらんください。ご本人としては、まずはご自身がボート部というところから、瀬田川を利用されている各大学のボート部さん、またはカヌー部等々の利用者の方とまず連携をつなげて取り組んでいききたいということで今活動を進められております。</li> <li>・そして、13ページが、ご本人が今年度当初に年間活動計画として定められ、承認を受けられた工程計画。対して、14ページがその工程計画に対</li> </ul>

		<p>しての現在の実績と今後の予定ということで、変更点につきましては黄色の帯、または青文字で記しております。ご本人としては、当初の予定からすると、少し計画変更の要素、進捗率的にも滞っている感を実際お持ちということと実情としてあるということでございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そうした中で、委員の皆様には別紙でお配りしているんですけども、ご本人が活動目標に定められている団体間の交流、そして、その後、冬季への清掃活動の結びつけというところについてご説明させていただきます。</li> <li>・関係団体と挙げられていた各大学のボート部さん等々の中から龍谷大学、同志社大学さんとのつながりがようやく持ててきたということで、まず今後11月期に開催される瀬田川筋での「ヘッドオブ瀬田」という大きなボートのレースの催しにこの3大学の皆様とで混成のチームを組まれて、より関係性を深めるという点。そして、その後、参加した3大学の皆様とのミーティングで冬季の清掃活動に向けて投げかけて、具体的な進捗を見せていきたいというふうにおっしゃってございました。</li> <li>・これが近藤さんの現状から今後に向けての状況報告ということで別紙でいただきましたので、ご報告にかえさせていただきたいと思います。</li> <li>・簡単ではございますが、以上でございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。それでは、ご意見、質問等をお伺いします。</li> <li>・その前に、きょうは本人にとって重要なポイントの日だろうということ踏まえて、実際にこの活動の期間、動ける期間というのはどうでしょう？ 年間活動計画では3月まで入っていますけれども。</li> </ul>
	M松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人の今後動ける期間ということですか。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。どういう感じでしょう。</li> </ul>
	M松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、ご本人は大学の3回生でございまして、ことしに関しましては就職活動、あと学生ですので成果論文を並行して活動するというのでこの計画を上げてスタートを切られていると。</li> <li>・それで、現在までの状況からしますと、実は私どもも8月と先月にご本人と会って活動の進みぐあいについてのお話をしているんですけども、ご本人も、学業等々の関係から、4月当初に想定していたスケジュール感では時間がうまくとれていないと。それから、ご本人は昨年任命を受けてこのテーマで活動されているんですけども、他大学の皆様との交流関係の構築というところもご本人が思っていたよりも困難であったということでもございました。</li> <li>・先ほど報告した今後の予定というところは先月ご本人に話を伺った結果ですけども、私どもとしても、最終的にご本人が関係をつくって、その方々と瀬田川筋で何かしらの取り組みを行うというところについては</li> </ul>

		<p>実際どうだということも伺ったんですが、ご本人としてはこの11月の交流でルールには乗れるということをおっしゃいました。それであれば、社会活動としての河川レンジャーというのをしっかり責任感を持って取り組んでほしいと。そして、取り組んで、着地点としてはやはり交流の皆さんと行動に移すというところの責任感ですよということを申し上げているところでございます。</p>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・それで、まず一番下の段、10月のところの清掃活動。「一斉清掃への参加人数、団体数増加、唐橋、瀬田川クリーン活動への参加」、これは具体的にどうでしょう？ 数字的に、報告的なものはもらえそうな感じでしょうか。</li> </ul>
	M松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。この紙面を提出いただいたときには唐橋と瀬田川のクリーン活動ということで伺っていたんですが、結果としましては、まず唐橋のクリーン活動につきましてはご本人のスケジュールの都合で参加できなかったということを確認しております。そして、先週の瀬田川クリーン活動につきましては、実は私のほうも伺いまして、結論としては7名の参加。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それは、近藤さんの周りで7名の参加ということですね。</li> </ul>
	M松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうでございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、それは幾つかのボート部さん？</li> </ul>
	M松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この7名というのは、まずご本人が今回つなげて連れてきたという実質の数字でございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのときに、27日でしたか、私も行ったんですけども、例えばボート部だったら、ボート部の特徴を生かして、水際のごみを届く範囲で取るとかいうこともありかなと。それだったら、ほかの皆さんに対してもアピール度はあるかと思えます。たしか漁協さんも動いておられたような感じだったので。競技用のボートではそれは難しいとは思うので、監視艇というか、そういうものをうまく手配してもらえれば、そういうのもありか思っています。</li> <li>・今発表していただいたように、交流の機会を持って進めてもらっていますが、それはそれで大事なことで、スタートラインですが、そうすることによって何かのつながりが生まれて、例えば本人が少し声をかけただけでつながりが生まれて何か行動に移るとか、そういうところが目指せればいいなど。それはご本人がいるときにも前にお話ししたと思うので。</li> <li>・あと、委員の皆様、どうでしょうか。</li> </ul>
	堀田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人がいないのでよくわからないところがあるんですけども、自分の置いている立場・環境を活用してほかの大学の方々との交流をつない</li> </ul>

		<p>で活動していこうというのはわかるんですが、あくまでも交流だとか関係づくりについては何かをやるための手段であって、「では、それを構築して何をしたいのか」というのを明確に目標として持って活動していただきたいなど。今聞いただけの範囲ではそういう感想を持ったので、ご本人に事務局から伝えるのかどうかわからないですけれども、その辺は伝えていただければなというふうに思います。</p>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>それは運営委員会での報告に対する意見なりとして伝えていただいたらいいと思います、今おっしゃったように、何か具体的に持ってないと、ただ「つながりますよ」と言うだけではうまくいかないだろうということは前々から感じているところなので。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた時間と、そんなに協力的に仲間が動いてくれるわけじゃないという環境もよくわかります。折々に苦心されているのが報告の中でもわかりますし、意識して活動されているんだなと思うんですけれども、工程の計画にも8月と10月に「意見交流会実施」と書いてあるんですが、月ごとの報告の仕方というか、部内のミーティングの中で話されたみたいな感じに思えて、本当にこういうことをやっしていこうというのを呼びかけて意見聴取を丁寧にされているのかなど。なので、箇条書きにしてもらうとかじゃないですけれども「どういう投げかけをして、こういう反応が返ってきた」というのをわかりやすく。書きぶりの問題か内容か、どこに問題があるのかははっきりご本人に聞かないとわからないところですが、交流会の実態というところをもう少し。写真を撮ってみるというのもいいかもしれないですし、何人いるのかもイメージがつかないので。「『実施した』とされている」という感触があったので、中身がわかたらありがたいなど。打ち合わせの成果というのも一個一個の積み上げだと思うので、報告の中見えやすいようにまとめていただけたら、もう少しつかみやすいかなというふうに思います。</li> <li>それから、追加で1枚くださっている資料に、12月に年末の大清掃というイメージを書いているんですけど、何とかほかのボート部さんでも協力してもらえらる範囲で開催しようという感じで、おのこの掃除のタイミングに合わせてこれを追加してもらおうというような提案だと思うんですが、先ほど委員長がおっしゃられたみたいに、一斉清掃のときにボートで水際のごみを拾ってみるとか「こういうことをやっていますよ」と発信したら取材が来るとかいう反応もあるかもしれないという話も今までの委員会に出ていたので、それぞれが「少ししました」というんじゃないで、何かの仕掛けがあったらいいのになど。</li> <li>例えば、根木山レンジャーがされていた樹木伐採の重量をはかって記録されるとかもですけれども、それぞれの部でやった清掃の成果を共有して「今年度はプラスでこれだけしました」みたいな記録を呼びかけで集</li> </ul>

		<p>めてみるとか、「ジャンボタニシを何個、何回取りました」というのもいいかもしれないですし、したそういうゲームっぽい工夫でもいいと思うので、みんなで一緒にやったぞという記録みたいなのが手応えで残ると、それぞれかかわった方の印象も残りやすいのかなと思いました。無理のない範囲かもしれないですが、そんな工夫を考えてもらえるといいんじゃないかなと。「言われたし、追加してやったよ」ではなく、「せっかくだし、みんなでこれをやったぞ」というような、それぞれの参加する方たちへの手応えみたいなものにもなるかと思うので、そんな仕掛け、ゲーム性みたいなものも考慮されたらどうかとこの追加の用紙を見ながら思っていましたので、お伝えいただけるといいかなと思います。</p>
山崎		<ul style="list-style-type: none"> <li>この工程表を見させてもらっているのと最後の1枚をいただいている中で、なかなかうまく進んでいないんだけど、今度の11月のレースのときにしっかり寄れるので、そのときに「こういう活動をしたと思っているんだ」というところを全体に発表するつもりをしてくれていると。11月はもうすぐなので、幾つかの大学を集めて、その場で本人さんがちゃんと動いてということなので、そこでの取り組みをしっかりお願いしますという形でやってもらうしかないのかなというふうに感じました。</li> </ul>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>はい、ありがとうございます。</li> <li>そうしましたら、今ほど各委員から出た意見をまとめていただいて、ご本人さんに伝わるようにお願いします。また、適度にフォローいただいて、よろしくお願いします。</li> </ul>
M松岡		<ul style="list-style-type: none"> <li>はい、わかりました。</li> </ul>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>そうしましたら、近藤さんは欠席ですけども、きょう来ていただいたレンジャーから言い逃したみたいなことがありましたらお伺いしますが、いかがでしょうか。よろしいですか。何かありそうな雰囲気だけど、いいですか。</li> </ul>
R水上		<ul style="list-style-type: none"> <li>近藤レンジャーがかわいそうなのは、我々2人はベテランだし、私は行政経験がありますので、言い方は悪いですけども、相当経験があるからできるので、そこは学生だからということで運営委員会としても。そうしないと、誰も河川レンジャーができなくなりますので、そこだけ運営委員会の人をお願いしたいんです。審査として。そこだけぜひよろしくお願いします。</li> </ul>
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>それはそう思います。決して厳しく言っているのではなく、「こうされたら」というアドバイスをしているつもりでしゃべっていますけれども。</li> </ul>
R水上		<ul style="list-style-type: none"> <li>それはわかります。それで、特に「成果、成果」になってしまうとあれです。</li> </ul>

	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それはそうです。成果も、さっき所長も言われたけれども、目指しているところもある。</li> <li>・では、よろしくお伝えください。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、わかりました。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。</li> <li>・では、進めてまいりましたが、レンジャーさんからの中間報告はここまでとさせていただきます。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
<p>5. 意見交換 (1) 琵琶湖河川レンジャー活動の視点の位置づけについて</p>	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次は活動の視点ということで、前々から議論を続けておりますが、そのパートに行きたいと思います。</li> <li>・まず、報告をしていただいて。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうしましたら、A3縦の資料-6になりますが、ご説明申し上げます。</li> <li>・「琵琶湖河川レンジャー活動の視点の位置づけについて」ということで、こちらに関しましては、地元の方の要望を河川レンジャーの方が吸い上げていくということもありますけれども、地元の方が河川管理者に要望されたものを河川レンジャーの方にお伝えする機会がなかなかなくて、そういった中で「こういった活動をしてもらいたい」という情報をどううまく伝えるかといった議論をかれこれ2年ほどしているところでございます。</li> <li>・前回、こういった内容については河川レンジャーの視点の位置づけとしてまとめていきたいと思いますというお話になりまして、その要点を表紙のところに4点まとめさせていただいております。</li> <li>・まず1点目は、理念・あるべき姿に位置づけていきたいと思いますということが合意された。</li> <li>・以下の3点が少し細かな内容になりますけれども、「河川管理者に寄せられている住民ニーズに対する活動」は「河川レンジャーの活動の理念・あるべき姿」という資料に位置づけまいかと。ただし、河川レンジャーの「理念」はさわらずに、そのものに位置づけるものではありませんよということが議論されました。</li> <li>・それから、「河川管理者に寄せられている住民ニーズに対する活動」の理念を追記するに当たっては、その追記する位置づけに至った経緯についても記載しておきましょうということでございました。</li> <li>・また、「河川管理者に寄せられている住民ニーズ」はその時々によって変化するというので、固定してしまうと、そこは変えられないと。時代時代でニーズは変わってきますので、そこは別紙という形にしたほうがよいというご意見でございました。</li> <li>・細かなニュアンスについては議事録、議事要旨をご参照いただきたいところでございますが、こういった要点でございます。</li> <li>・これらを前回の6月からの間に少し修正してきましたので、今回ご確認いただきたいと思います。</li> <li>・1ページですが、タイトルの「河川レンジャー活動の理念・あるべき姿の位置づけ」というものでございまして、ここの部分は位置づけをつくるに当たっての経緯を書いております。上段と下段は同じような内容になっておりますが、上段が6月のときの資料でございまして、下段</li> </ul>



は前回の意見を受けまして今回版という形にしておりますので、見比べていただけたらと思います。

- ・前回の6月は、前年度に言われておりました資料の文章をそのまま位置づけのところに盛り込んで、以前から変わったところは赤字にして付け加えたんですけども、活動の視点や住民ニーズはこの位置づけに入れるものではないということで、今回は、理念のところのほうを変えるに当たっての経緯ということで、右下のほうに赤字で示したものを位置づけという資料に入れてはどうかということにしております。
- ・ちょっと戻りますけれども、全体のこの資料は、河川レンジャーの活動理念やあるべき姿をつくらないといけないでしょうという議論がこの制度運営委員会であったときに、それをつくるに当たっての位置づけということで作られたペーパーでございます。それが平成26年度につくられたものでございまして、今回それに新たに赤字のものをつけ加えたらどうかというところでの提案です。
- ・読ませていただきますと、「河川レンジャーの理念・目標の明示に関し、顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズを明示し、住民と行政との連携・協働がより積極的に取り組まれ、河川レンジャーの個別活動の評価、継続審査、任命審査に活用されるものとする。」ということで、こういったことをしていきたいということを経緯の中に入れて、次のページの理念・あるべき姿のところを追記するというような形で持っていております。
- ・2ページが河川レンジャーの活動の理念というところになりまして、つけ加えてはどうかというご提案になります。私のほうからは、このページの下段を説明させていただきます。
- ・まず、上の四角には「河川レンジャー活動の『理念』」が来ております。ここは、これまでから変わらないものということで特に変更してございません。これまでどおりの理念にしております。
- ・左下の四角は「河川レンジャー活動に当たっての『姿勢』」ということで、長期的な視野とか固定概念にとらわれないとか、こちらも従来お決めになられた活動に当たっての姿勢というものは変えてございません。このままでいいのではないかとこのところでは。
- ・それから、最も河川レンジャーの極意といえますか、住民の真の知恵を聴取するというのが一番重要なところですけども、それに当たっての心得も特に変わってございません。まず「聴く・認識する」ところから始まって「呼びかける」「つなぐ」「引き出す」「提案する」、こういった活動を繰り返しながら、PDCAといえますか、よりレンジャー活動を充実していただくというようなことを書いております。
- ・では、具体的にどういった活動をテーマにしていくのがいいのかという

	<p>ことで、右下の「活動テーマ設定に際しての『視点事例』」というところですが、当初は5項目挙がっておりました。今回は、それに今課題になっております項目を赤字で追加してはどうかというものです。まず、「川から遠ざかっている子ども、住民に対する関心の喚起」「川の自然的価値、歴史・文化的価値の再発見」「住民の昔からの暮らしの中で培われてきた環境維持技術の掘り起こし」「外来種による生態系や文化・社会への影響」「水防災への関心の喚起」、こういったところが活動のテーマになるのかなというようなことでレンジャーになられる方等に説明しておりましたが、これに並立して「顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズに関する取り組み」ということで、ここで具体的なニーズもあるよということも活動の視点に入れたらいいんじゃないか、ここに入れるとおさまりがいいのではないかということで提案させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それで、どんなニーズがあるのかというのは3ページに記載しておりますが、これは、随時といいますか、時に応じて変更していいのではないかとございます。</li> <li>・3ページの左側は「河川レンジャー活動のイメージ」ということで、これまでも理念とセットで資料としてつくられておまして、過去の制度運営委員会の南村委員がどういった概念で活動したらいいのかなということを参考的につくられたものです。</li> <li>・下段の右側の四角を見ていただきたいんですが、表題を赤字で書いております。今回、2ページ目に書きました文言と合わせて「顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズ」というタイトルにしまして、どういった住民ニーズがあるのかを箇条書きにしております。例えば、野洲川では「野洲川の河道内樹木を伐採してほしい」「野洲川の高水敷の草を刈ってほしい」、瀬田川では「瀬田川の水草を刈ってほしい」「瀬田川の外来種を駆除してほしい」、あと河川の活用ですとか琵琶湖の水位管理の疑問点とか要望等、こういったニーズが現在寄せられているということでございまして、これでよろしければ「令和元年10月31日現在」として今後活用していくのはどうかというような提案でございます。</li> <li>・それで、この3枚組のようなものを理念等の資料として制度運営委員会で保存してはどうかと考えております。</li> <li>・以上でございます。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、説明ありがとうございました。</li> <li>・各ページの下段、右下を除いては前々から議論が続けられてきて、おおむね共有できているだろうと。それで、右下のところは、以前から、事細かにレンジャーさんに期待するところを記載されてしまうと実際の活動としては窮屈だろうなということで、今も説明がありましたように、</li> </ul>

		<p>最後の3ページに別紙扱いとして例示していけばどうかということであり ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いきなり振ってすいませんが、実際活動していただいているレンジャー から見て、これはどうでしょうか。大体想定されていたところではない かと思いますが。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>3ページの「河川管理者に寄せられた住民ニーズ」、これを河川レンジ ャー活動に取り入れていったらどうかと。簡単に言うと、そういうこと ですよね。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうです。「取り入れるべし」あるいは「意識すべし」というところの ニュアンスはみんなそれぞれ違うのではないかと考えていまして、さっ きも言いましたように、事細かに書いて「これをしないとイケない」と いうことになってしまうと、それはよくないのでこういう機会があるた びにいろいろしゃべる中でイメージしていくと。でも、イメージしつづ も、それぞれ個性ある活動の中でかなり濃く取り込める部分もあるし、 「ほかのことに合わせてやろうか」的なこともあると思うんですよね、 この中でも。だから、「そうしなければならない」的というよりは、こ ういうことも寄せられているので、住民さんとの接点に立っていただき ながらも意識して活動の中にもうまく取り入れてもらうというか、それぐ らいのレベルかなと私は思っています。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>お聞きしたかったのは、これはほとんど河川管理者がやるべきことみた いな感じですが、別にいいんです。気をつけていただきたいのは、この 河川管理者がやるべきことをうまくつないでいくのが河川レンジャーの 活動ですが、ずばり言いますと、河川管理者が河川レンジャーに対して、 下請と言うんですか、活動費を払っていますので、「おまえら、活動費 を払っているからやってくれ」というような認識を持ってもらうと困る ので、そこだけはきちんと伝えていただきたい。あくまでいい川づくり をしようということで中立の立場でやっていますから、そこは誤解のな いように。これを書いてしまうと、往々にして職員の方々には誤解してし まう。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうですね。「こう書いてある。」ということになると、それはまずい。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>それで、「わたしがしている清掃活動してください」と。例えば、私がつ なげていっていると、「それは行政ではなく河川レンジャーがするん でしょ？お金も払っていますよね？」という形になってしまう可能性が ある。それが一番怖い。恐らく根木山さんも一緒だと思います。我々河 川レンジャーは中立の立場であって、下請ではないですから。それだと 河川レンジャー制度の意味が全くなくなってしまうから、そこだけ お願いしたいなと思います。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>でも、去年示された構造から比べると、こういうふうに3段階に分けて</li> </ul>

		<p>いただくことで位置づけが正確になったのかなと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今、水上さんが管理者である職員の皆さんに誤解のないように伝えてほしいということをおっしゃられましたが、それと同時に、河川レンジャーの側も住民と行政のつなぎ役だということを支援室から誤解がないように伝えていくということも大事だろうなと。その両方が大事だろうなということを水上さんの話を聞いて感じました。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さっきも言いましたように、「この紙です」と言ってしまうと、とり方がよくないので、常にこういう活動報告なり年間計画を立てていただく機会の中で、「そういうものですね。これはどうつないでもらっていますか」とか、みんながそういう雰囲気共有しているというのが大事だろうなと思っています。</li> <li>・それで、堀田委員、所長の立場なのか委員の立場なのかはあれですけども、今レンジャーからもそういう話が出ていたし、自分の興味のある分野での計画だし、そういうところにこういう例示があると「確かにこういうこともある」と意識しつつ、個性ある活動をしてもらえるんだらうなというふうに思っています。</li> </ul>
	堀田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いや、ここにニーズが書いてあるんですが、まずは、要領にも書いていますけれども、ニーズを把握する取り組みというのが活動の中に入っていますので、そういう活動もするんだよというのがわかるような形で書かないとだめなのかなと思っています。</li> <li>・改めて2ページの下を見ると「ニーズに関する取り組み」と書きしまっているから、さっきおっしゃったように、この取り組みをしないといけないんじゃないかなという誤解が生まれる可能性があるんで、例えば「ニーズを把握する取り組み」だとか、そんな形にしないとだめなのかなと。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズそのものではないですよということですよ。</li> </ul>
	堀田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もちろん、そのニーズの中で、この例示した中で取り組めるものについては取り組んで。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうそう。当然、ヒットするものはあっていいのですが。</li> </ul>
	堀田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・というのが1点。</li> <li>・それから、1ページの下赤字ですけども、最後に「利活用されるものとする」とあるじゃないですか。これは何を利活用するのですか。この文章が何かよくわからないなと思って。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、私から経緯を踏まえて補足すると、私もこの文章は、推敲した上でこうなったと思うんですけども、もう少し検討したいなと思うところです。</li> <li>・「審査に」というのは、今までの議論の流れであったのが、当初は河川管理者が感じている住民ニーズにも取り組んでもらうことが必須であるという感じで、それに取り組んでおられることが任命や継続審査のとき</li> </ul>

	<p>の一つの条件のように言っていらっしゃった部分がありました。上の前回委員会の同じ場所のあたりを見ていただくと、赤字で「運営委員会において、承認に至らない場合がある」という書きぶりもあって、当初の提案でそういう文言が出てきたときもあったのですが、例えば3枚目の南村委員の例示の文章は、空想的な部分もあると思いますが、住民主体ならではの創意工夫のある活動であったり、幅広い活動の余地のある制度というのが、この制度は行政でできるようなことをすることではないという前提があったので、それが任用とかに大きく縛られてしまうと、制度の趣旨として外れてくるんじゃないかなと。私の中ではそういう思いもあって、何となく委員会の議論の中でもソフトになってきて、河川管理者が持っている住民のニーズ、寄せられている意見に対しても意識を向けて取り組んでもらえるようにしたいというようなニュアンスに落ちついてきているのが今回の資料の表現です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・でも、活動の審査の中でそれを意識しているかどうかということも要件に加えて委員会では議論してほしいというような投げかけだったんです。実は、私はあるべき姿のレビューのワーキングをしているときぐらいから委員をしているんですが、今までは、委員会の意識もあって、事務所側からのご要望をほとんど聞かない状況で進んだところもあって、そういう意味では、河川管理者からの課題というのも制度の取り組みの中で拾っていつてもらいたいというような提案がこの一連の議論の当初にされたというような感じかなというふうに思っています。</li> <li>・でも、そういう双方の意見があって制度ができ上がっていくというのが本当はいいんだろうなと思うので、委員会の趣旨と河川事務所さんの趣旨が出てきてすり合わさっているので、よい議論ができているんだな、また違う意味では議論が深まっているんじゃないかなとは思っています。ただ、表現の仕方とか書きぶりで制約になってしまうので、慎重に取り扱っているというか、慎重に考えないとだめだなと思って。</li> <li>・私は、ここの「利活用」についてはソフトになってきたからいいな、こんな感じかなと思っているんですけども、「顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズを明示し」となっているところが何となく必須な感じがして。「これをしろ」みたいな、さっき水上レンジャーがおっしゃられたご懸念にも触れるような縛りの表現にも捉えられそうだなと。「念頭に」とか「意識し」くらいのほうが私が思う加え方としては合っているのかなと思ったので、文章をもう少し見たほうがいいかなという気がしました。それで、評価の際にその要素も委員会として判断しましょうというような文言ではないかと思うんですけども。</li> <li>・経緯と、この文章への意見ということで述べさせていただきました。</li> </ul>
堀田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いや、経緯と意図は今ご説明いただいたのでわかったんですけども、</li> </ul>

		単純に言えば、この文章は主語がなくて、何に利活用されるのかがわからないというだけだったんですけれども。
	北井	・そうですね。わかりにくい。何回読んでもややこしいなど。
	中谷	・そうです。今お話ししてもらったようなことを踏まえて読むと「そういうものか」的に進むんだけど、ぱっと見たときに、先ほどおっしゃったように、「明示し」「利活用」というかなりかたい表現になっている。ここは前から議論が続いているところなので、今ほど出た意見も踏まえて、知恵を出していただけますか。そういうものがあると、実際活動していただくレンジャーにもすっと入るし、運営委員会としても、今後計画なりを見させていただくときには「こういう視点も大事です」的なことも言えるので。今すぐうまくどうしろとは言えないんだけど、こういうのはたたき台があると次に進みやすいので、すいませんが、そういうことでひとつよろしくお願いします。
	△奥野	・先ほどの「顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズを明示し」というところですけども、結局それを河川レンジャーに伝えていかないといけないと。ただ、それは社会情勢の中で時代時代によって変わってくるものであって、きちんと時代時代にそれを明示して、すぐに更新できるようなものというふうなイメージなのかなと。
	北井	・「河川管理者は」ということ？ 「河川管理者は、顕在化している河川管理者に対するニーズを河川レンジャーに明示し」ということ？ 「委員に明示し」ということ？委員会に明示するのかしら。河川管理者がそうすると。
	北井	・なるほど。委員会に明示するのかしら。委員会に。
	中谷	・委員会と言うと、それもあれだし。例えば、活動計画をつくれる際に伝えるぐらいの話なんじゃないかな。「こういうニーズがあります」ということが伝わればいいんですよ。
	△奥野	・そうですね。
	中谷	・そこは余り、「明示するから、これをしろ」的につながっちゃうと。
	北井	・そうですね。
	中谷	・「こういうことが今寄せられています」的なものを伝えてもらいレンジャーも計画をつくる際にはそういうことを意識していただくと、そういう流れ。
	R水上	・委員長。先ほどの発言の中で誤解があるといけないので。 ・3ページのやつは確かに河川管理者がやるんですけども、これは河川管理者も皆一緒ですが、これをやることによっていい川づくりになるんです。もちろん国交省も国民のためにいい川づくりをやりとうということをやっていますので、やり方を気をつけないと。そこだけです。そこだ

		<p>け誤解のないように。河川レンジャーは、つなぐということですから、両方の意見を聞いてやるんです。このテーマは別にこれでもいいと思うんです、いい川づくりのテーマだから。</p>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズはニーズでいいので、それはおっしゃるとおりです。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だから、やらないというわけじゃなしに、これはまさにいい川づくりにとっていいことですから。そこだけ誤解のないように。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。</li> </ul>
	△奥野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補足しますと、2ページ目の理念の中で「顕在化している課題だけでなく」ということで、河川レンジャーは顕在化しているものに対しても取り組みましょうということが前段としてあると。では、顕在化している課題というのはどういうものなのかというところで、河川管理者に寄せられているニーズというのはこういうものですよと。</li> <li>・それで、これはもう余り議論するつもりもないんですが、河川管理者に寄せられているニーズの中で、河川管理者ができるものは当然するのですけれども、予算的な制約であったり、法律の制約とか、いろんな制約がある中で予算化できないものについての取り組みをしてほしいというのが前からのお願い事項なので、何でもかんでも河川管理者の仕事をレンジャーにやってもらおうという意味合いではないということだけは理解していただきたいなと思います。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こういう場で今の話のように声に出して言っているとわかるんですけれども、紙に書いて「これ」ということになると。その辺のニュアンスだと思う。今のお話のようなことも、例えばレンジャーとの意見交換会の場でメンバー固定であればお互いよくわかっていることですからけれども、常に「こういう意識です」ということをしていただくのも大事なのかなと。</li> <li>・それで、いつものことながら、こうやっていろいろしゃべっていても時間は経過しますので、すいませんが、今出た意見、委員だけでなしにレンジャー、事務局から出た意見も踏まえて、もう一度その辺の書きぶりを考えてください。特に1ページ目の下のところ。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章として「顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズ」というのが残っていくということなので、これは今の段階のものということで日付を入れる提案もしてくださっているんですけれども、文章としてつくるからにはどう運用していくかという部分も検討しておいたほうがいいと思います。特に、事務所の中の課題を取りまとめていただいて、しかも事務所でできることではなくて、さっきおっしゃられたみたいに、予算とか法律上の制約があって事務所だけでは難しいことに選定してもらってまとめるという作業だと思うので、このまま固定化しないように、いつかの段階の委員会でも更新するというような心づもりで、運用の取り</li> </ul>

		決めのご提案みたいなものもいただけるといいかなと思います。多分委員会の場に出てきて確認するという手続が要るだろうなと思いますが、それをお願いしたいです。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お願いをしちゃいましたけれども、多分、継続してこういう話をして、まとめていくというのが大事だと思いますので、また工夫してつくっていきましょう。</li> <li>・そういうことで、一旦ここまでとさせていただきます。</li> </ul>
	△中西	・ありがとうございました。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. その他	中谷	・それでは、次、スケジュールについてお願いします。
(1) 今後のスケジュール(案)及び(2) 河川レンジャーレポートVOL38 発行について	M松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、「その他」の今後のスケジュール、それとその次の河川レンジャーレポート発行についてご報告させていただければと存じます。</li> <li>・まず資料ー7、今年度の年間スケジュール(案)という形で今年度末までをお示ししているんですが、本日が表の真ん中の10月の青い帯、「第58回制度運営委員会」というところがございます。</li> <li>・今後におきましては、まず「制度運営委員会等」という縦の軸でいきますと、12月に第2回目となります河川レンジャーと琵琶湖河川事務所との意見交換会を開催したく、現在日程を調整中でございます。そして、委員の皆様におかれては、その下の2月から3月にかけている青い帯、年度末に次回の第59回制度運営委員会を予定しておりますので、別途日程をお伺いさせていただきます。よろしく願いいたします。</li> <li>・真ん中の「河川レンジャーミーティングおよび勉強会(仮称)」という縦軸ですけれども、1月のところに「第2回河川レンジャー勉強会『河川の基礎知識と水防災』」ということで、こちらも現在調整中でございます。これが本年度2回目のレンジャー向けの勉強会でございます。</li> <li>・「その他」の11月のところを見てくださいと、「琵琶湖河川レンジャーレポートvol. 38発行」ということで、こちらは参考資料ー1としてお配りしております。今回は近藤河川レンジャーに執筆いただきまして、あす11月1日からの発行ということでお示しさせていただきました。今後は、まず12月に流域連携イベントとしまして、黄色い帯、「水辺の匠クリスマス」をウォーターステーション琵琶の会の皆様と河川事務所さん、アクア琵琶さんとの共催で催す予定となっております。1月にはレンジャーレポートvol. 39の発行を予定しておりますので、2月から3月にかけて、ちょうど制度運営委員会のタイミングに合わせるような形で今年度最終のレンジャーレポートvol. 40を発行させていただきたいと考えておりますので、ご報告させていただきます。よろしく願いいたします。</li> </ul>



		す。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、説明ありがとうございました。59回の日程調整もまた適宜進めていただくようにお願いします。</li> <li>・レンジャーレポート、これは片面刷りですか。</li> </ul>
	M松岡	・今回は片面刷りで。
	中谷	・もったいないですね。
	M松岡	・すみません。前回もご意見をいただいていたのですが。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、11月23日の情報が載るとかね。でき上がっているんだったらあれですが、せっかくの機会なので、トピック的に40周年のイベントができましたというのも関係することなので、事務局がされたものもトピックとしてあってもいいのかなという気もするんですけども。そこは事務局さんの意見も聞いてなんです。</li> <li>・それと、実は、遠回しな話になるんですが、整備局では国交省主催で技術研究発表会をされていて、私も今県庁にいるのでその情報が回ってきて、「こんなテーマでやっておられます」というのを見たんですけども、「地域連携」という項目で事務局からは2題発表されて、そのうちの1題が今度東京であるやつにノミネートされていると思うんです。そういう中で、レンジャーと事務局との意見交換会も、課に出てきてもらっていると思うんですけども、レンジャー制度を担当する管理課だけでなく、環境課も一緒に内容の濃い意見交換をしてもらいたいなと思っていました。論文を読んだ中では、地域連携と言いつつ、全国版でいくと、淀川だけがレンジャーをやっている。だから、他から見ると「何？」の話になるのかもしれませんが、制度としてあるので、そういうところの機会があれば住民との川づくりという観点からでは大変有効なことだろうと思いますので、その辺もうまく出させていただきたいのかなという気がしております。</li> <li>・今の2題説明していただいた中で、委員の方から何か意見、質問等ないでしょうか。3月はなかなか日程的に厳しい時期にもなりますけれども。</li> </ul>
	山崎	・そうですね。2月後半から3月は一番しんどいです。
	中谷	・3月末まで厳しい時期だから。代表質問中ぐらいであれば時間がとれるのかもしれませんが、そこはまた工夫していただいて、ご協力をよろしくお願いします。
	山崎	・はい、わかりました。
	中谷	・それでは、議題のほうはここまでですが、よろしいですか。

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. その他	中谷	・きょうは傍聴の方はおられないですか。
(3) 傍聴者か	△中西	・はい。
らの意見	中谷	・はい、ありがとうございます。 ・それでは、議事はここまでとさせていただきます。後の時間で新たに応募がありましたレンジャーの審査に移りますので、公開の議事はここまでとさせていただきます。

(**太字**：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
7. 閉会	△中西	・本日は、長時間、熱心なご審議、ご議論をいただきまして、まことにありがとうございました。これで第58回制度運営委員会を終わらせていただきます。ありがとうございました。 ・これからの予定ですけれども、準備ができ次第、始めさせていただきます。

## 新規琵琶湖河川レンジャー応募者の審査結果について

今年度応募のあった新規琵琶湖河川レンジャーへの応募者 1 名については、「河川レンジャー制度運営委員会」において、審査（非公開）を執り行い、その結果、応募者については任命しないことが決定されました。

## 第 2 回 琵琶湖河川レンジャー・琵琶湖河川事務所 意見交換会 開催報告

■日 時：令和 2 年 1 月 14 日 (火) 15:00～17:00

■場 所：琵琶湖河川事務所 1F 会議室

■趣 旨：

河川レンジャーと琵琶湖河川事務所の各担当職員が、瀬田川・野洲川・琵琶湖に関わるものとして、それぞれの立場から語り合い、双方による情報提供・意見交換・活動提案等を行うことにより、今後のより良い川づくりに向けた機会とする。

■出席者：

○意見交換会メンバー

区分	氏名	所属等
河川レンジャー	根木山 恒平	4 期 7 年目
	水上 幸夫	2 期 3 年目
	近藤 啓太 * 欠席	1 期 2 年目
琵琶湖河川事務所	奥野 淳一	保全対策官
	戸田 勝士	管理課 専門職
	重島 浩司	管理課 専門職
	上野 和也	調査課 課長
	小原 良一	河川環境課 課長
	島本 和久	占用調整課 課長
	山中 昌秀	瀬田川出張所 所長
	小高 茂治	野洲川出張所 所長

○事務局

区分	氏名	所属等
流域連携支援室	松岡 徹	ウォーターステーション琵琶
	武田 みゆき	ウォーターステーション琵琶
	中西 史尚	ウォーターステーション琵琶
	小野 正雄	ウォーターステーション琵琶

■議 事：1. 意見交換

○河川レンジャーからの話題

2. その他

○水教育プログラム体験

## ■結 果

### 1. 意見交換

事前に河川レンジャーから今後の活動に活かさせていけるように意見交換したい内容を聞き取り、その内容を基に意見交換を行いました。（○：意見交換したい内容 ⇒：主な意見）

#### (1) 野洲川の樹林管理について（中長期的な視野で）

○来年度で緊急対策（伐木の工事）が終了したあとは、やはり、住民による公募伐採で対策していくことになると思います。数年前に伐木（工事）された服部大橋と稲荷大橋の間の区間を、過日、視察してきましたが、直径数センチ程度の樹木は、すでに育っていました。

⇒この区間は、右岸側を2年前に、左岸側を3～4年ほど前に伐木（工事）を行ったため、今年度の計画には入っていない。今後の繁茂の状況を見ながら、次年度以降で実施するかを検討していくと地域へ伝えているところである。

⇒稲荷大橋から下流右岸側 500m 程の高水敷の一部については、次年度実施する計画である。理由は、河川は野鳥や野生動物の生息環境でもある。そういった環境へも配慮しながら計画期間内で段階的に実施するものである。

○今後、住民による公募伐採を進めていく上で、ターゲットとして、薪ストーブユーザーなどによる伐採、あるいは、河川保全活動（ボランティア）、さらに、キノコの原木利用など事業者による伐採など、いくつか想定されるパターンに対して、どこにフォーカスしていくのがよいか、意見交換したいです。

⇒樹種によっては早ければ1年、概ね2～3年先には、今回実施した伐木箇所には一定の樹木の再繁茂が見受けられる状態になってくる。その状態くらいまでならば、河川保全活動として地域住民との活動が可能であると思われる。それ以上は幹が太くなり、難しくなると思われる。

⇒稲荷大橋から下流の低水路内の中洲や水際の樹木は、高水敷よりも再繁茂が早まるのではないかと。この箇所を河川保全活動として実施する場合は、移動時の水深や流速、手段などの課題がある。

⇒実際に低水路内の中洲での河川保全活動を行おうとした場合、移動手段としてのボートなど、事務所や出張所に保有している機材などがあれば、支援していただくなどの相談をさせていただければありがたい。

○また、これまでの意見交換のなかで「将来的には、樹木伐採をする住民による河川協力団体ができたらいいな」というような話もありました。仮に河川協力団体の組織化を構想する際にも、薪利用なのか、保全活動なのか、あるいは、事業者型なのか、という異なる目的・使命をもつ団体像が想定されると思われます。

⇒事業者型（商業目的）とした場合では、難しいと思われる。一度伐採すると数年は目的にあった樹木を確保して行くことができないため、計画的に進めていくことができない。薪利用としても同様になると思われる。

⇒河川保全活動とした場合では、その活動を継続していくためには、地域住民による伐採を行い、伐採した樹木を管理者が運搬し、処分は沿線の自治体が行っていくなどの費用負担も含めた役割分担の関係構築が必要になってくるのではないかと。

⇒例えば、スポーツなどのフィールドとしてなど、高水敷を利用することを目的とした場合は難しい。河川の占用に当たり、河川の自由使用の範囲を超えてしまう。占用については、公共性のある沿川の自治体などを対象に許可の判断を行っている。

## (2) 野洲川中洲地区の公園利用について

- 守山市が占有している、「中洲親水公園あめんぼう」について、地元から、「親水公園としては利用制限が多く、整備されたのにほとんど利用されていない。」との声を聞いている。占有許可者の河川事務所から占有者に対して働きかけなどが出来ないか。あるいは利用促進の方法などが無いかな。良策はなかなかないのかも知れないが、PRしておきたい。
- ⇒占有は、河川保全利用委員会を設置し、河川法に基づいて、その中で許可の判断を行っている。その中で議論するのは、河川環境への影響や、利用目的が河川に親しむなど河川らしい利用であるかなどである。
- ⇒利用制限については、占有者が設定する。河川管理者から利用制限について言及することはない。
- ⇒おそらくは管理していく上で公園法に基づいて占有者が管理する当該地以外の堤内地の公園も含めて一律に設定しているのではないかな。
- ⇒趣旨は、特定の利用者が独占的に利用することによって、他の希望者が利用できなくなることはないようにするためであると思われる。自由使用を制限するものではないと思われる。
- ⇒河川レンジャーとしては、地域住民から問合せがあった場合に市役所の公園管理担当の問合せ窓口を紹介するなど是可以するのではないかな。



## 2. 水教育プログラム体験

幼稚園生から高校生を対象として、人と水との関わり合いについて、単に知識を学ぶということだけでなく、体験を通じて自ら考えながら楽しく学ぶ学習プログラムの紹介を支援室から紹介した。

◆プログラム：「水のオリンピック」 水のもつ性質を体験しながら学ぶプログラム



以上

# 琵琶湖河川レンジャー勉強会 第2回水防災研修会の開催

## 1. 目的

琵琶湖河川事務所管内では、水防災意識社会の再構築に向けて、逃げ遅れをなくすための避難行動、長期的な避難のための取り組みなどが実施されています。

そのような中で、地域の方々が確実な避難行動を実施できるような、最近の取り組みについて基礎知識を学んで頂き、今後の地域連携の話題づくりや活動の参考にしていただくことを目的としています。

今回は、昨年度（H30年11月22日）に実施した第1回水防災研修(座学)を踏まえ、マイ防災マップの作成を実践しました。

## 2. 概要

- ◆開催日時 令和2年1月31日（金） 14時～17時
- ◆開催場所 守山市立 中洲会館・公民館および守山市幸津川町周辺
- ◆研修内容
  - (1) マイ防災マップづくりについて
  - (2) まち歩き
  - (3) マイ防災マップの作成・まとめ
  - (4) 意見交換
- ◆講 師 山口遼太氏（淀川管内河川レンジャー（枚方管内））
- ◆参加人数 15名（河川レンジャー2名、地元参加者1名、講師1名、守山市2名、琵琶湖河川事務所4名、流域連携支援室5名）

## 3. マイ防災マップづくりの説明とまち歩き

### (1) マイ防災マップづくりについて（座学）



- ① 近年の豪雨災害時の非難遅れの課題と解決策の一つとしてマイ防災マップづくりがあること
- ② 河川レンジャーが地域に入ってマイ防災マップづくりに取り組む方法
- ③ マイ防災マップづくりの際の町歩きの留意点

### (2) まち歩き（フィールドワーク）



- ① 出発地点から避難所までのルートの確認
- ② 浸水している状況を想定した住んでいる地域の確認
- ③ 水路の有無、幅、ガードレール、電灯の有無、マンホール、障害物
- ④ 目印となる標識や施設の確認
- ⑤ 道路の交通量 歩く 時間の目安

## 4. マイ防災マップ作成

### (1) マイ防災マップづくり (ワークショップ形式)

- ① 各自が現地を歩いて気づいたことを付箋に書いて、大きな白地図に落としていく。
- ② 立場に関係なく、参加者の気づきを聞きながら、出ていない気づきを追加していく。
- ③ 大まかなマイ防災マップが完成
- ④ 最後に全体をみて、感想を述べ合う。



### (2) 意見交換

#### ① マップづくりを通して地域の課題に対して

- ・行政の視点: 必ずしも近くに水害時の避難場所がない場合がある。自宅の2階などが浸水想定上は安全な場合があり、垂直避難も必要。災害時に開ける施設(中洲会館・公民館は危機管理の担当者が待機するために開く。小学校は教育関係者が解錠するので不明。)
- ・地域より: 90代独り暮らしが増えている。伝わる方法を考えないといけない。運動会などで地域の自治会長からの話であれば伝わりやすいかも。3世代で住む家庭などは、高齢世代は若い世代に託してしまい、情報が直接入らない。
- ・新しい住民と古い住民との関わりが希薄。子どもが成人してしまうと、地域との関わりが希薄になる。

#### ② マップづくりの意義などについて

- ・地域との交流の機会として有意義だった。
- ・意見が出しやすい環境作りが大切とわかった。
- ・地域には、水との暮らしの跡が案外残っていて、地域のことが再認識できる。

## 5. 感想(アンケートより)

### ○マイ防災マップづくりについて

- ・自分の住む地域をみんなで歩き、あらためて、気づきを共有することは、大切なこと。(レンジャー)
- ・自分の住んでいる地域をかえりみることは大切。関心のない人たちにも経験してほしい。(地元)
- ・行政はどうしても広域的なものしかできないので、やはり、地域に住んでるものしかわからない部分が多々ある。行政のをベースに詳細なものは地域でマップを作成する方が良いと感じた。(守山市)
- ・今後、展開を考えている地域防災計画(地域の方が主導で作る、特定地域の防災計画)にも重なる部分もあり、非常に参考になったし、これから協力いただける事があるとありがたい。(守山市)
- ・最近の災害や今回の話を受けて、防災マップの重要性を改めて再認識した。(河川管理者)

### ○講座の感想

- ・「論じる場」ではなく「意見をとにかく出していく場」と明言されたことでやりやすくなった。作成プロセスについて細かく説明していただけたので、自分が作成するイメージがもてた。
- ・今後を考えるよい機会になった。また機会があれば参加したい。
- ・非常に分かりやすく、子供も楽しく講義が聞けるのではないかと思います。肩肘張らず楽しくできた。





危険箇所の分類	凡例	
水に関する危険	側溝・水路など	青色の丸印 ●
	マンホール	
道路に関する危険	階段・段差・坂の勾配	赤色の丸印 ●
	狭い道・交通量の多い道	
施設に関する危険	冠水の恐れのある施設	黄色の丸印 ●
	暗い場所 (街灯がない)	
地域が知る危険	地域の教訓	緑色の丸印 ●
	その他気づいた点	

## 2019 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動報告書

- 根木山河川レンジャー P. 1
- 水上河川レンジャー P. 6
- 近藤河川レンジャー P. 12



テーマ： 野洲川の川守りをつなぐ

■年間活動報告書（要約版）

氏名： 根木山 恒平

作成日： 2020年 2月10日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	<p>野洲川下流部のうち守山市中洲地区では、地域の長年の要望を受けて、守山市と国交省により野洲川中洲親水公園が整備されました。地域（守山市中洲学区）では、守山市地域まるごと活性化プランにもとづく住民活動「野洲川プロジェクト」が、計画期間を延長して継続されることになりました。また、親水公園の除草作業を担う住民チーム「あめんぼうサポート隊」も組織されています。河川レンジャーとして支援してきた住民有志グループ「なかす野洲川たんけん隊」も住民主体の活動をされています。2019年は、野洲川放水路40周年を迎えます。</p> <p>課題としては、せっかく整備された親水公園の住民利用が少ないことがあります。また、河道内には土砂が堆積し、樹木が繁茂していて、周辺住民から河川管理者に対して、浚渫や伐採を要望する声が絶えませんが、これまでは河川管理者も予算の問題もあり、たくさんの樹木を一度に伐採することはできてきませんでした。そうした中、2018年7月豪雨を受けて、昨年度末、補正予算にて「3か年緊急対策」として河道内の樹木を伐採する予算がついたとのことで、今年秋ごろから施工が行われていく見通しです。他方、守山市では「環境学習都市宣言」が採択され（2017年11月）、中洲地区では、野洲川を守山市の宝として環境学習を進めよう、というかけ声も聴かれます。</p>	
実施目的	<p><b>（ビジョン）</b> 野洲川下流部において、野洲川中洲親水公園を中心に、住民活動（利用）が活性化し、あわせて、清掃作業や除草作業などの維持管理にも参加・協力する住民がいる状況をつくります。また、数年先に、河道内の樹木の伐採作業を行う住民（複数）によるグループの発足を展望します。</p> <p><b>（ミッション）</b> 野洲川の利用者や周辺住民と出会い、話を聞き、ニーズを把握し、関係構築し、野洲川を利活用した住民主体の活動を支援します。同時に、河川管理者や守山市との情報共有をはかり、住民活動と行政施策とのつなぎ役を果たします。</p>	
今年度の成果目標と結果	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA～F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価。また、そのように評価した理由や根拠</p>	
	1. 野洲川下流部にて、野洲川中洲親水公園等での住民活動を活性化させます。	<p>A ・ <b>B</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠 「川遊びオープンデイ」や「草サッカー」等、利用活動を10回実施しました（参加者236名）。公園管理者との調整も進みました。</p>
	2. 野洲川にて許可を得て樹木伐採を行う住民との情報・意見交換、支援を通して、ニーズをつかみ、住民による樹木伐採が継続的に行われるための仕組みを検討します。	<p>A ・ <b>B</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠 樹木伐採（公募）について、河川管理者と連携し、土日合同伐採作業日の当日の運営を担い、2～4月にかけて3回実施予定です。また、伐木（工事）の無償配布についてもインターネットでの情報発信を行っています。</p>
	※当初想定していなかった成果	

	年間活動計画	活動結果
	<p>※1年間を通して、自ら評価できる点やPRしたい点            利用促進については、川遊びや、草サッカーなどの実際の利用活動の場をもうけ、住民の参加を進めるとともに、公園管理者（守山市）との調整も進めることができました。            樹木伐採については、河川管理者との情報、意見交換を進め、3カ年緊急対策工事で、今年度～次年度で、いったん樹木が皆伐される見通しであるところから、今後は、住民参加による河川保全活動が求められる状況にあることが見えてきました。また、守山市環境学習都市宣言（2017年11月）にもとづく事業計画づくりがはじまるため（事業開始は2021年4月見込み）、野洲川における住民参加の河川保全活動を、守山市の事業計画に位置付けてもらえるように地元住民とも意見交換をはかるなど提言の準備を進めています。</p>	
活動内容の計画と結果	<p>※活動計画で掲げた活動内容対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載</p>	
	① 野洲川での住民活動支援 -1. 中洲学区住民活動「野洲川プロジェクト」の活動として「カヤック体験イベント」の実施を支援します。	「カヤック体験イベント」について、事務局の中洲会館と情報共有をはかっていましたが、10月に実施予定でしたが、広報したものの参加者が集まらず中止となりました。
	② 野洲川での住民活動支援 -2. 野洲川中洲親水公園の利用者を増やすための住民活動を試行します。また、占用者（守山市）が掲示する使用ルールの妥当性について、必要に応じて、地域や行政と協議します。	「草サッカー」を1月までに計7回実施し、参加者147名（述べ）でした。中洲会館をとおして、公園管理者とも調整をはかり、草サッカーの利用許可を得ることができました。河川管理者とも、使用ルールについて意見交換することができました。
	③ 野洲川での住民活動支援 -3. 野洲川をフィールドにした子どもたちの学習活動を行う住民有志グループ「なかす野洲川たんけん隊」の活動を支援します。	今年も「川遊びオープンデー」（2回/参加者78名）を支援しました。
	④ 野洲川での住民活動支援 -4. 住民ニーズに応じて、住民による水防災活動（防災カマドをつかった訓練やマイ水防災マップづくり等）を支援したり、他の河川レンジャーによる活動とも連携して活動します。	河川レンジャー講座として実施された「マイ水防災マップづくり」を守山市幸津川町にて行うための事前調整で協力することができました。また当講座に幸津川町の住民1名に参加いただくことができました。
	⑤ 樹木伐採などの課題に対する住民と行政が連携した活動支援 -1. 河川管理者の施策「野洲川の樹木伐採（公募）」に参加し、活動しようとする住民と連絡をとり、情報・意見交換をはかり、必要に応じて活動を支援します。	住民グループによる野洲川の樹木伐採活動（1月まで1回/参加者6名）を支援しました。
	⑥ 樹木伐採などの課題に対する住民と行政が連携した活動支援 -2. 河川管理者とも連携し、樹木伐採（公募）に参加する住民同士の連絡や協力がとれるように支援します。必要に応じて、休日実施（イベント）の運営にも関与します。	昨年度までの経過を踏まえ、河川管理者とも情報交換をはかり、今年度の樹木伐採（公募）における土日合同伐採作業日の当日運営を担当することになり、2～4月に3回実施予定です。
	⑦ 樹木伐採などの課題に対する住民と行政が連携した活動支援 -3. 河川管理者による3か年の緊急対策（樹木伐採）の状況について情報共有し、必要があれば、地域住民とも情報交換していきます。	河川レンジャーと琵琶湖河川事務所との意見交換会の場も活用し、3か年緊急対策（伐木工事）の進捗を把握しながら、今後の見通しについても意見交換することができました。

	年間活動計画	活動結果
	※当初予定していなかったが実施できたこと	
活動対象に対する関係づくりの結果	<p>※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのか。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載</p> <p>① 住民</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中洲学区住民活動「野洲川プロジェクト」</li> <li>・中洲学区住民チーム「あめんぼうサポート隊」</li> <li>・住民有志グループ「なかす野洲川たんけん隊」</li> <li>・野洲川周辺の水防災等を行おうとする住民（組織）</li> <li>・野洲川の樹木伐採（公募）に関心があり、活動しようとする住民（組織）</li> <li>・守山市中洲学区各自治会住民</li> </ul> <p>② 河川管理者、守山市、中洲会館、その他教育機関等</p>	<p>中洲学区では、学区長や中洲会館の館長、職員との関係づくりができてきています。</p> <p>また、この後、土日休日合同伐採の当日運営を通して、樹木伐採（公募）の参加者との対話や関係づくりもはかる予定です。</p> <p>守山市環境学習都市宣言にもとづく、事業計画づくりに参画する住民との意見交換もはかり、野洲川での住民参加の河川保全活動について提言していく予定です。</p> <p>琵琶湖河川事務所意見交換会や、河川レンジャー講座などを通して、意見交換をはかっています。</p>
今後の課題	<p>※ 1年間の活動を通して、今後継続的に取り組んでいきたい事柄、河川レンジャーとして高めていきたい能力など</p> <p>野洲川における住民の利用促進については、定期的な活動の場の運営と、効果的な広報活動が必要だと考えています。</p> <p>野洲川の樹木伐採については、3カ年緊急対策により今年度、次年度で、一旦、樹木が皆伐される見込みであることがわかってきたため、薪利用やキノコの原木利用などの住民ニーズから、むしろ、河川保全活動への住民参加にフォーカスして、活動を計画、参加の呼びかけをはかることが必要だということがわかってきました。</p>	

◆承認後の年間活動計画における工程計画（承認時）に対して、中間報告時に変更・時点修正したこれまでの活動実績及び今後の活動予定

		年間活動計画											
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	(1)-1 カヤック体験イベント		情報共有				情報共有	情報共有					
	(1)-2 親水公園利活用推進	住民意見交換	試行	試行	試行		協議試行	台風中止	試行	試行	試行	試行	総括
	(1)-3 野洲川学習活動	計画作成支援	役割分担支援	川遊び	台風中止	川遊び	中間振り返り	活動	三川合流視察	発表			振り返り
	(1)-4 連携活動等		情報共有			活動成果発表	打合せ	台風延期	清掃活動		水防 災 勉 強 会		
	(2)-1 樹木伐採活動支援	管理者と情報共有	意見交換会			管理者と情報共有	公募開始		伐採期間開始		伐採支援	伐採支援	伐採支援
	(2)-2 樹木伐採の参加者間連携支援								情報共有 ツール作成	休日 試行		休日 試行	
	(2)-3 3か年緊急対策関連							地域との情報共有	※施工開始見込み				

※中間報告時の工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績

工程計画	年間活動計画											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)-1 カヤック体験イベント		情報共有				情報共有	情報共有					
(1)-2 親水公園利活用推進	住民意見交換	試行	試行	試行		協議試行	台風中止	試行	試行	試行	試行	総括
(1)-3 野洲川学習活動	計画作成支援	役割分担支援	川遊び	台風中止	川遊び	中間振り返り	活動	三川合流視察	発表			振り返り
(1)-4 連携活動等		情報共有			活動成果発表	打合せ	台風延期	清掃活動		水防災勉強会		
(2)-1 樹木伐採活動支援	管理者と情報共有	意見交換会			管理者と情報共有	公募開始		伐採期間開始		伐採支援	伐採支援	伐採支援
(2)-2 樹木伐採の参加者間連携支援								情報共有ツール作成		打合せ	土日合同伐採作業	土日合同伐採作業
(2)-3 3か年緊急対策関連						地域との情報共有	施工開始	施工状況把握発信	伐木無償配布発信	情報共有	地域との情報共有	

※青文字および空白箇所は、変更部分



テーマ： 住民と行政がともに考える川づくり

■年間活動報告書（要約版）

氏名： 水上 幸夫

作成日： 2020年 2月 9日

	年間活動計画	活動結果							
背景と昨年度の課題	私は、川は住民の宝であり、できるだけ多くの人々に「川に関心を持ってもらい」「川に直接ふれてもらい」「川のことを自ら考えてもらう」等の行動をしてもらえるような「住民参加の川づくり」の取り組みを進めるべきだと思っている。そのためには、行政（河川管理者）と住民がともに考える川づくりを進めることが重要であると考えている。								
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 野洲川が多くの人の活動場所となる。</li> <li>② 住民が川づくりに参加できるような仕組みができる。</li> <li>③ 住民と行政がともに考える川づくりの仕組みができる。</li> <li>④ 最終的には住民と行政が連携した住民参加の川づくりが実現する。</li> </ul> <p>(ミッション)</p> <p>サブテーマとして3つのテーマで活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域住民参加の川づくり</li> <li>② 企業参加の川づくり</li> <li>③ 地元中学校参加の川づくり</li> </ul>								
今年度の成果目標と結果	<p>※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA～F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価。また、そのように評価した理由や根拠</p> <table border="1" data-bbox="288 1283 1465 1906"> <tr> <td data-bbox="288 1283 842 1585">                     1. 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり                       野洲川河川清掃活動の継続                      昨年実施した時の参加者の感想を踏まえるとともに今年度事前に「行政と住民の皆さんの思い」を聴き計画を作成しバージョンアップした活動を進めていく                 </td> <td data-bbox="842 1283 1465 1585">                     A ・ B ・ <b>③</b> ・ D ・ E ・ F                      ※理由・根拠                      企業、地元住民、行政に何度もヒアリングを行い行政と住民の皆さんのそれぞれの想いを聴き「行政と住民がともに活動する野洲川河川清掃」に向けた活動を進めた                 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="288 1585 842 1906">                     2. 地元中学校参加の川づくり                       野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査の継続                      立命館守山中学校の思いをヒアリングして今まで実施してきたモニタリング調査を継続するとともにさらなるバージョンアップした活動を進めていく。                 </td> <td data-bbox="842 1585 1465 1906">                     A ・ B ・ <b>③</b> ・ D ・ E ・ F                      ※理由・根拠                      ①YRP を開催し立命館守山中学校と行政の想いを聴き継続調査を実施するとともに新たに左岸の調査を始めるように調整した。                      ②今年度から高校生も参加・活動する事になり活動の輪を広げる事ができた。                 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="288 1906 842 2094">                     ※当初想定していなかった成果                 </td> <td colspan="2" data-bbox="842 1906 1465 2094"></td> </tr> </table>		1. 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり  野洲川河川清掃活動の継続 昨年実施した時の参加者の感想を踏まえるとともに今年度事前に「行政と住民の皆さんの思い」を聴き計画を作成しバージョンアップした活動を進めていく	A ・ B ・ <b>③</b> ・ D ・ E ・ F ※理由・根拠 企業、地元住民、行政に何度もヒアリングを行い行政と住民の皆さんのそれぞれの想いを聴き「行政と住民がともに活動する野洲川河川清掃」に向けた活動を進めた	2. 地元中学校参加の川づくり  野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査の継続 立命館守山中学校の思いをヒアリングして今まで実施してきたモニタリング調査を継続するとともにさらなるバージョンアップした活動を進めていく。	A ・ B ・ <b>③</b> ・ D ・ E ・ F ※理由・根拠 ①YRP を開催し立命館守山中学校と行政の想いを聴き継続調査を実施するとともに新たに左岸の調査を始めるように調整した。 ②今年度から高校生も参加・活動する事になり活動の輪を広げる事ができた。	※当初想定していなかった成果		
1. 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり  野洲川河川清掃活動の継続 昨年実施した時の参加者の感想を踏まえるとともに今年度事前に「行政と住民の皆さんの思い」を聴き計画を作成しバージョンアップした活動を進めていく	A ・ B ・ <b>③</b> ・ D ・ E ・ F ※理由・根拠 企業、地元住民、行政に何度もヒアリングを行い行政と住民の皆さんのそれぞれの想いを聴き「行政と住民がともに活動する野洲川河川清掃」に向けた活動を進めた								
2. 地元中学校参加の川づくり  野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査の継続 立命館守山中学校の思いをヒアリングして今まで実施してきたモニタリング調査を継続するとともにさらなるバージョンアップした活動を進めていく。	A ・ B ・ <b>③</b> ・ D ・ E ・ F ※理由・根拠 ①YRP を開催し立命館守山中学校と行政の想いを聴き継続調査を実施するとともに新たに左岸の調査を始めるように調整した。 ②今年度から高校生も参加・活動する事になり活動の輪を広げる事ができた。								
※当初想定していなかった成果									

	年間活動計画	活動結果
	<p>※1年間を通して、自ら評価できる点やPRしたい点など</p> <p>①野洲川河川清掃 台風19号の影響で中止になりそうであったが再調整をして昨年とほぼ同じ規模で実施できた。</p> <p>②野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査 生徒達の活動に対するモチベーションが下がってきていたが、新たに左岸の調査を始めるように調整するとともに高校生も参加・活動する事になり活動の輪を広げる事ができた。</p>	
<p>活動内容の計画と結果</p>	<p>※活動計画で掲げた活動内容対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載</p> <p>① 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政と企業、地域住民を繋ぐ野洲川清掃活動実施計画</li> <li>1)実施時期：令和元年10月</li> <li>2)参加者：約100名予定</li> <li>3)実施項目： <ul style="list-style-type: none"> <li>第1部 河川清掃</li> <li>第2部 川の防災イベント (野洲川通水40周年記念イベント)</li> </ul> </li> </ul> <p>② 地元中学校参加の川づくり 野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング調査の事前調整 ～立命館守山中学校と琵琶湖河川事務所の各々の想いを聴く YRP (意見交換会) を開催～</li> <li>1. 春季調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) YRP (意見交換会) 開催 (5月)</li> </ul> </li> <li>2. 秋季調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) YRP (意見交換会) 開催 (10月)</li> </ul> </li> </ul>	<p>企業、地元住民、行政に何度もヒアリングを行い行政と住民の皆さんのそれぞれの想いを聴き行政と住民がともに活動する「令和元年野洲川河川清掃」を10月12日の実施するように調整したが台風19号の影響で中止(順延)となった。実施日時の調整、内容について再調整を行なった。</p> <p>活動概要</p> <p>1)実施時期 令和元年11月23日(土)</p> <p>2)参加者：約70名</p> <p>3)実施項目：</p> <p>第1部 河川清掃</p> <p>第2部 野洲川通水40周年記念イベント ～川から自分達の身を守る防災体験～ ・防災かまどによる炊き出し体験</p>   <p>建築用ブロックを利用し皆さんで防災かまどの組立をした。皆さんで組み立てた防災かまどを使って炊き出し体験を実施した</p> <p><b>春季調査</b></p> <p>(1)事前調整 YRP (意見交換会) 開催</p>  <p>①野洲川河口部ヨシ帯再生事業について説明。</p> <p>②野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査の目的と調査の経緯について説明して意見交換を行った。</p>

	年間活動計画	活動結果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング調査 春季調査（5月）及び秋季調査（10月）の現地調査については全体の進行をコーディネート</li> <li>・モニタリング調査とりまとめについてのYRP開催 春季、秋季モニタリング調査結果の取りまとめについて意見交換会開催</li> </ul>	<p><b>(2) モニタリング調査（現地）</b></p> <p>①河川レンジャーから 調査内容と調査方法及び安全管理について説明した。</p> <p>調査項目 （右岸）・・・継続調査</p> <p>①ヨシ帯面積調査（台形法・GPS） ②魚類調査 ③ヤナギの抑制調査</p> <p>（左岸） ヨシ帯繁茂状況の定点調査 （中洲大橋から写真撮影）</p> <p><b>秋季調査</b></p> <p><b>(1) 事前調整</b></p> <p>YRP（意見交換会）開催 <b>モニタリング調査の方法を見直した</b></p> <p>①ドローンで撮影した航空写真により植生図を作成。 ②作成した植生図よりヨシ帯の植物の種類と面積を算出。</p> <p><b>(2) モニタリング調査（現地）</b> 全体の進行をコーディネート</p> <p>①YRPで作成した植生図を現地に持参して植物の種類について現地検証を行った。 ②植生図で算出したヨシ帯の面積について台形法による面積調査により現地検証を行った。 ③ヤナギの抑制調査</p>
	※当初予定していなかったが実施できたこと	
活動対象に対する関係づくりの結果	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのかを記載。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載	
	① 企業	野洲川清掃活動を通じて社員の皆さんと信頼関係づくりができた。
	② 地域住民	10月12日に実施予定の野洲川河川清掃は台風19号の影響で中止になったが多くの方に野洲川清掃活動に参加して頂けるように再調整し11月23日に実施する事ができた。

	年間活動計画	活動結果
	③ 立命館守山中学校	顧問の先生が変わり生徒達の活動に対するモチベーションが下がってきており皆さんの想いを聴き積極的に参加してもらえるようにモニタリング調査の見直しをした。 また新たに高校生も参加するように働きかけ数名であるが参加する事になった。
	④ 管理者（琵琶湖河川事務所、守山市）	野洲川河川清掃が継続できる関係づくりができた。
今後の課題	<p>※ 1年間の活動を通して、今後継続的に取り組んでいきたい事柄、河川レンジャーとして高めていきたい能力など</p> <p>①野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査 高校生まで活動の輪を広げるとともに今年度新たに始めた左岸のヨシ帯のモニタリング調査を中心に皆さんの想いを聴き継続して進めていく予定。</p> <p>②野洲川河川清掃活動 河川清掃については継続的に実施するとともにできれば今、野洲川において地域住民と河川管理者の課題の一つとなっている「樹木伐採後の維持管理」についても試験的に取り組んでいきたい。</p>	

◆承認後の年間活動計画における工程計画（承認時）に対して、中間報告時に変更・時点修正したこれまでの活動実績及び今後の活動予定

工程計画	年間活動計画												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
野洲川清掃活動				ヒアリング	ヒアリング	関係者と最終調整	<b>台風19号の影響で清掃中止 再調整</b>	令和元年野洲川河川清掃 11月23日実施予定	とりまとめ 考察	次年度活動計画(案)作成	次年度活動計画のヒアリング		
野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング調査	ヒアリング	YRP開催・春季調査実施		YRP開催ヤナギ抑制調査	YRP開催ヤナギ抑制調査	YRP開催ヤナギ抑制調査	YRP開催	秋季調査実施	YRP開催	YRP開催	成果発表		

※中間報告時の工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績

工程計画	年間活動計画											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
野洲川清掃活動				ヒ ア リ ン グ	ヒ ア リ ン グ	関 係 者 と 最 終 調 整	台 風 19 号 の 影 響 で 清 掃 中 止  再 調 整	令 和 元 年 野 洲 川 河 川 清 掃  11 月 23 日 実 施	と り ま と め		R2 年 度 活 動 計 画 ・ 暫 定 版 作 成	R2 年 度 活 動 計 画 に つ い て 関 係 者 と 調 整
野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング調査	ヒ ア リ ン グ	YRP 開 催 ・ 春 季 調 査 実 施		YRP 開 催 ヤ ナ ギ 抑 制 調 査	YRP 開 催 ヤ ナ ギ 抑 制 調 査	YRP 開 催 ヤ ナ ギ 抑 制 調 査	YRP 開 催	秋 季 調 査 実 施	YRP 開 催	YRP 開 催	YRP 開 催	3 月 25 日  成 果 発 表 会

※青文字および空白箇所は、変更部分

テーマ： 瀬田川流域の水草環境改善のための河川利用者間の交流の場の構築

■年間活動報告書（要約版）

氏名： 近藤 啓太

作成日： 2020年 2月 7日

	年間活動計画	活動結果
背景と昨年度の課題	私は大学のボート部で瀬田川を毎日利用しているが、瀬田川は（6月頃～9月頃）水草が繁茂し、水上でのボート競技、カヌー競技などの活動が困難となることがある。さらに、これによって景観も損なわれているので水草の除去活動を進めていきたいが現時点では瀬田川利用者、利用団体の連携がうまくとれている状況にはないためまずは交流の機会をつくる。昨年は水草除去を主に掲げていたが今年度はその基盤となる関係づくりに重点を置いて活動を進める。	
実施目的	<p><b>（ビジョン）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>瀬田川流域の利用者、利用団体が相互的に交流を深め、瀬田川流域の環境をよりよくしていく活動にともにとりくめるような関係性を構築する。</li> <li>気軽に参加できるイベントを複数団体で行うことによって、水草除去などハードルが高く思われる作業にも参加してもらえるような環境づくりを行う。</li> </ul> <p><b>（ミッション）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>瀬田川のボート利用者間で意見交流会を開催し互いの関係づくりを促進する。</li> <li>それぞれの活動に影響が出ない範囲で小規模のレース、レセプションなどを行い、同じ河川を利用している仲間であるという認識を共有する。</li> <li>そうした行為の積み重ねにより各団体間の協同関係を築き、冬季に大規模な清掃活動を行えるような関係に発展させる。</li> </ul>	
今年度の成果目標	※活動計画で掲げた成果目標に対してこれまでの達成度をA～F（Aが達成度最大、Fが達成度最低）の6段階で自己評価。また、そのように評価した理由や根拠	
と結果	1. 複数団体での顔合わせ、意見交流会の開催	<p>A ・ <b>(B)</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠 基本的にはミニレース後の軽い懇親会と言った形がメインとなった。唐橋クリーン活動では代表者会議を行っているそうなのでそうしたオフィシャルな形のものも実施したかった。</p>
	2. 複数団体を巻き込んだ小規模のレースなどの複数回開催し、団体間の協働関係を作り上げる	<p><b>(A)</b> ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠 春期から複数回にわたってミニレースを実施し、最終的に年末の清掃活動へとつながっていった。2020年春にも瀬田川の大学間での協同活動案が提示されるなどプラットフォームを築けたのではないかと考える。</p>
	3. 冬季の清掃活動などの実施	<p>A ・ <b>(B)</b> ・ C ・ D ・ E ・ F</p> <p>※理由・根拠 昨年は頓挫したが今年は京大と同志社大学で協同して年末に清掃活動の実施を行えた。</p>

	年間活動計画	活動結果
	※当初想定していなかった成果	清掃活動、ミニレースなどについては今年度に参加していただいた方からの来年度実施をオファーされた。
	※1年間を通して、自ら評価できる点やPRしたい点など これまでほぼ分断された形であった瀬田川流域の学生ボート部の交流の場をボートから作り、なんとか清掃活動までつなげていくことができた。	
活動内容の計画と結果	※活動計画で掲げた活動内容に対して、これまでに実際に実施できた事柄、計画していたが実施できなかった事柄、さらに、当初予定していなかったが実施できたことなどを、前述の成果目標の番号と対比して記載	
	① 瀬田川を拠点にしているボート利用団体の代表者、賛同者を複数名集めて顔合わせと意見の交流を行う。	ミニレースを実施した後の交流会という形において河川清掃の話し合いなど活動に関連付けた意見の交流を行うことができた。
	② 各々の活動を損なわないようまずはボート競技という枠組みの中で複数団体が参加するレースなどを開催し、同じ瀬田川で活動している人たちがいること、一緒に活動することが気軽なものであることなどを認識していただく。	ミニレースを頻繁に実施し、混成クルーの結成なども行った。結果として各団体顔見知り以上の関係のメンバーが増えたことで交流の機会が増え、「〇〇が来るなら」という環境形成は進みつつある。
	③ 冬季など各団体が時間の取れる時期に共同で清掃活動を行う。	年末大掃除の一環として各大学の活動範囲付近の清掃を希望者を募って実施することができた。
	※当初予定していなかったが実施できたこと	来年度四月に瀬田川流域のボート部での中規模レース(非公式戦)の初開催が進行中
活動対象に対する関係づくりの結果	※活動計画の中で、「活動の対象」として挙げた相手について、これまでにどのような関係づくりできたのか。また、当初想定していなかった相手との関係づくりが出来た場合には、そのことも記載	
	① 瀬田川流域のボート、カヌー利用者想定団体： 京都大学ボート部、京都大学医学部ボート部、同志社大学ボート部、龍谷大学漕艇部、立命館大学ボート部、京都府医科大学ボート部、京都大学カヌー部、同志社大学カヌー部、立命館大学カヌー部 など	京都大学ボート部、龍谷大学ボート部、同志社大学ボート部の三つに関してはかなり深い関係性を築くことができた。
今後の課題	※1年間の活動を通して、今後継続的に取組んでいきたい事柄、河川レンジャーとして高めていきたい能力など  先の勉強会でお話を聞いた地域防災マップ作りに非常に興味を持ったのでそれに関しても知見を広げていきたいと考えています。	



◆承認後の年間活動計画における工程計画（承認時）に対して、中間報告時に変更・時点修正したこれまでの活動実績及び今後の活動予定

		年間活動計画											
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	<b>顔合わせ、意見交流会</b>	意見交流会の企画	ヒアリングに出向き、各大学ボート部に参加を持ちかけ。			第一回意見交流会実施。		第二回意見交流会実施。	ヘッドオブセタ合同参加、交流会実施			意見交流会実施。	
	<b>小規模活動展開</b>			戸田漕艇場でのミニレース実施		瀬田川でのミニレース実施			ヘッドオブセタ合同参加				
	<b>清掃活動</b>			京大ボート部内での大規模清掃活動試行				瀬田川一清掃への参加人数、団体数増加、唐橋、瀬田川クリーン活動への参加		年末大掃除を各ボート部割り当て区域にて実施			カヌー、ボートなど瀬田川に拠点を構えている団体による清掃活動を実施。

※中間報告時の工程計画（上段）に対して、これまでの活動実績

工程計画	年間活動計画												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
顔合わせ、意見交流会	意見交流会の企画	ヒアリングに出向き、各大学ボート部に参加を持ちかけ。				第一回意見交流会実施。		第二回意見交流会実施。	ヘッドオブセタ合同参加、交流会実施			意見交流会実施。	
小規模活動展開			戸田漕艇場でのミニレース実施		瀬田川でのミニレース実施			ヘッドオブセタ合同参加					
清掃活動			京大ボート部内での大規模清掃活動試行				瀬田川一清掃への参加人数、団体数増加、唐橋、瀬田川クリーン活動への参加		年末大掃除を各ボート部割り当て区域にて実施				カヌー、ボートなど瀬田川に拠点を構えている団体による清掃活動を実施。

2020 年度 琵琶湖河川レンジャー年間活動計画  
【暫定版】

- 根木山河川レンジャー P. 1
- 水上河川レンジャー P. 3



(テーマ) 野洲川の川守りをつなぐ

氏 名：根木山 恒平  
作成日：2020年 2月10日

**背景と昨年度の課題**

野洲川下流部のうち守山市中洲地区では、地域の長年の要望を受けて、守山市と国交省により野洲川中洲親水公園が整備されました。河川レンジャーとして支援してきた住民有志グループ「なかず野洲川たんけん隊」も住民主体の活動をされています。課題としては、せっかく整備された親水公園の住民利用が少ないことがあります。

地域住民から、河道内に樹木が繁茂している状況に対し対策を求める声があり、この数年は、薪やキノコの原木利用という住民ニーズをとらえ、住民による樹木伐採（公募）が実施されてきましたが、平成30年度から国の3カ年緊急対策による野洲川の樹木の伐木（工事）が行われることになり、状況が一変していくことがわかってきました。令和2年度までに、河道内の樹木が一旦は皆伐される見通しであることから、今後は、住民による河川保全活動が必要になってくると考えられます。

他方、守山市では「環境学習都市宣言」（2017年11月）にもとづき、2021年4月から、中洲学区内に整備される環境学習拠点施設を中心に、環境学習事業が始まる予定で、そうした行政施策において、野洲川での住民による保全活動を積極的に位置付けられるようにしていく必要があると考えています。

**実施目的**

(ビジョン)  
野洲川下流部における住民による河川の利用活動および保全活動が活性化している状況を展望します。国による「水防災意識社会再構築ビジョン」なども踏まえた野洲川の河道内樹木の伐木作業や、大きな社会問題となっているプラゴミ問題（川ゴミ）の削減に向けて、住民参加による保全活動が野洲川でも進んでいくことを目指して活動します。

(ミッション)  
住民による河川の利用においては、守山市などが占有する河川公園などを中心に、河川管理者、公園管理者（守山市）とも調整をはかり、住民活動が活性化するように、行政とのつなぎ役と、住民参加の後押し役として活動します。樹木の伐木作業や、川ゴミ削減に向けた住民活動の支援においては、企業と連携した野洲川クリーン作戦を進めている他の河川レンジャーとも緊密に連携して、野洲川流域の住民や企業が、野洲川の保全活動に参加するきっかけや、気運づくりに役割を果たしたいと考えています。

- 次年度の成果目標**
- (1) 「川遊び」および「草サッカー」を中心に、(守山市の人口構成としてもっとも多いと言われる) 30～40歳代の子育て世代の野洲川の利用を進めます。
  - (2) 「草サッカー」などの利用活動ともあわせて、定期的な川ゴミの清掃活動の場をもうけ、アウトドア感覚で楽しく参加する清掃活動の雰囲気づくり、イメージづくりをはかります。
  - (3) 「野洲川クリーン作戦」とも連携して、住民参加による樹木の伐木作業の機会をもうけ、住民の参加を進めます。

- 内容**
- (1) 野洲川中洲親水公園を中心に、「川遊び」および「草サッカー」など、子連れ家族が参加できる機会をもうけるよう住民と協力して活動します。
  - (2) 「草サッカー」にあわせ、月1回ペースで、定期的な川ゴミの清掃活動の場をつくり、より多くの人びとに情報を届けられるように発信します。
  - (3) 年2回の「野洲川クリーン作戦」の機会を生かし、住民による樹木の伐木作業の場をつくります。

2020年度 琵琶湖河川レンジャー 年間活動計画（暫定版）

対象	(1) 守山市内在住の30~40代子育て世代 (2) 同上 (3) 同上、および、野洲川流域に立地する企業（事業所）の従業員												
工程計画		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	(1) 親水公園利用活動	草サッカー	草サッカー	草サッカー	川遊び	川遊び	川遊び	草サッカー	草サッカー	草サッカー	草サッカー	草サッカー	草サッカー
	(2) 定期清掃活動	清掃活動	清掃活動	清掃活動				清掃活動	清掃活動	清掃活動	清掃活動	清掃活動	清掃活動
(3) 樹木の伐木作業			伐木				伐木						

(テーマ) 住民と行政がともに活動する川づくり

氏名：水上幸夫  
作成日：2020年 2月 9日

背景と昨年度の課題	私は、川は住民の宝であり、できるだけ多くの人々に「川に関心を持ってもらい」「川に直接ふれてもらい」「川のことを自ら考えてもらう」等の行動をしてもらえるような「住民参加の川づくり」の取り組みを進めるべきだと思っている。そのためには、行政（河川管理者）と住民がともに考える川づくりを進めることが重要であると考えている。
実施目的	<p>(ビジョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 野洲川が多くの人の活動場所となる。</li> <li>② 住民が川づくりに参加できるような仕組みができる。</li> <li>③ 住民と行政がともに考える川づくりの仕組みができる。</li> <li>④ 最終的には住民と行政が連携した住民参加の川づくりが実現する。</li> </ul> <p>(ミッション)</p> <p>サブテーマとして3つのテーマで活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域住民参加の川づくり</li> <li>② 企業参加の川づくり</li> <li>③ 地元中学校参加の川づくり</li> </ul>
次年度の成果目標	<p>(1) 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり 野洲川河川清掃活動の継続 河川清掃については継続的に実施するとともにできれば今、野洲川において地域住民と河川管理者の課題の一つとなっている「樹木伐採後の維持管理」についても試験的に取り組む。</p> <p>(2) 地元中学校参加の川づくり 野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査の継続 高校生まで活動の輪を広げるとともに今年度新たに始めた左岸のヨシ帯のモニタリング調査を中心に皆さんの想いを聴き継続して進めていく。</p>

内容	<p>(1) 企業、地域住民が川づくりに参加できるような仕組みづくり 河川清掃については継続的に実施するとともに今、野洲川において地域住民と河川管理者の課題の一つとなっている「樹木伐採後の維持管理」についても試験的に取り組む。</p> <p>1. 行政と企業、地域住民を繋ぐ野洲川清掃活動実施計画(概要)</p> <p>1) 実施時期 令和2年 10月</p> <p>2) 参加者・・・約 100名予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 企業 株式会社 レイマック、なかす野洲川たんけん隊、地域住民</li> <li>② 琵琶湖河川事務所、守山市</li> </ul> <p>3) 実施項目</p> <p>第1部 河川清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃場所</li> <li>① 野洲川親水公園の上下流(昨年より広い範囲とする)</li> </ul>
----	---

	<p>第2部 川の防災イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>防災かまどによる非常炊き出し体験(予定)</li> </ul> </li> </ul> <p>※実施項目、清掃範囲、実施日時等の詳細については関係者にヒアリングして活動計画を作成し実施する。</p> <p>(2)地元中学校参加の川づくり</p> <p><b>野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査</b></p> <p>高校生まで活動の輪を広げるとともに昨年度から新たに始めた左岸のヨシ帯のモニタリング調査を中心に皆さんの想いを聴き継続して進めていく</p> <p>・<b>モニタリング調査の事前調整</b></p> <p>～立命館守山中学校と琵琶湖河川事務所の各々の想いを聴くYRP(意見交換会)を開催～</p> <p>1. 春季調査</p> <p>(1)YRP(意見交換会)開催(5月)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①YRPの開催日時の調整</li> <li>②YRPの意見交換の内容についてシナリオ(案)を作成して顧問の先生及び琵琶湖河川事務所にヒアリングを行ない調整</li> <li>③ヒアリング結果を元に意見交換会のシナリオを作成</li> <li>④YRP(意見交換会)で中学生が実施したい調査について想いを聴き、琵琶湖河川事務所と調整をする</li> <li>⑤<b>春季調査のモニタリング調査項目、タイムスケジュール(案)</b>を作成し調整。</li> </ol> <p>2. 秋季調査</p> <p>(1)YRP(意見交換会)開催(10月)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①YRPの開催日時の調整</li> <li>②YRPの意見交換の内容についてシナリオ(案)を作成して顧問の先生及び琵琶湖河川事務所にヒアリングを行ない調整</li> <li>③ヒアリング結果を元に意見交換会のシナリオを作成</li> <li>④YRP(意見交換会)で中学生が実施したい調査について想いを聴き、琵琶湖河川事務所と調整をする</li> <li>⑤<b>秋季調査のモニタリング調査項目、タイムスケジュール(案)</b>を作成し調整。</li> </ol> <p>・<b>モニタリング調査</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①春季調査(5月)及び秋季調査(10月)の現地調査については全体の進行をコーディネートする。</li> </ol> <p>・<b>モニタリング調査とりまとめについてのYRP開催</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①春季、秋季モニタリング調査結果の取りまとめについて意見交換会開催</li> </ol>
<p>対象</p>	<p>企業、地域住民、立命館守山中学校、行政(琵琶湖河川事務所、守山市)</p>



2020年度 琵琶湖河川レンジャー 年間活動計画（暫定版）

工程計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
野洲川清掃活動			ヒアリング	ヒアリング	ヒアリング	関係者と最終調整	清掃活動実施	とりまとめ	考察	次年度活動計画(案)作成	次年度活動計画のヒアリング	
野洲川河口部ヨシ帯再生モニタリング調査	ヒアリング	YRP開催・春季調査実施	YRP開催	YRP開催			秋季調査実施		YRP開催	YRP開催	成果発表	

## 琵琶湖河川レンジャー活動の視点の位置づけについて

# 河川レンジャー活動の理念・あるべき姿の位置づけ

令和元年10月31日  
第58回 琵琶湖河川レンジャー制度運営委員会  
【検討資料】

「河川レンジャー」については、淀川水系河川整備計画で提起され、琵琶湖河川事務所管内では、平成18年度に「河川レンジャー制度」が制度化された。それ以降、当制度に基づく河川レンジャー活動が展開されてきたが、平成24年度に、今後の河川レンジャー制度及び委員会組織のあり方について、ワーキングによるレビューに基づき答申が行われた。ここに示す、「河川レンジャー活動の理念・あるべき姿」は、当答申に基づいて明文化するものである。

## ■淀川水系河川整備計画（平成21年3月策定）

河川レンジャーは、行政と住民との間に介在して、住民が河川に関心を持つような活動に取り組むとともに、個別事業の検討段階における住民意見の聴取や、住民の河川にかかわるニーズの収集を行う。当面は、河川にかかる環境学習等の文化活動や動植物の保護活動、河川利用者への安全指導等の活動を試行する。また河川レンジャー自らが住民と行政をつなぐテーマについて、試行も含めて活動の充実を図る。将来的には、地域住民と河川管理者とが連携しながら河川整備を進めていく上で、住民と河川管理者との橋渡し役となることも期待される。

## ■河川レンジャー制度(現状)

### ○河川レンジャー制度運営委員会規約

#### ・前文(抜粋)

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域およびその周辺で行うものとする。

・名称、目的、委員の責務、審議事項、組織等、任期、委員長・副委員長、委員会、議事、委員会の公開、事務局、規約の改正、雑則

### ○琵琶湖河川レンジャー活動要領

・趣旨、定義、責務、活動拠点、任命及び解任、活動休止及び再開、任期、活動支援、活動計画、活動報告、研修、謝金等、保険の加入、活動要領の改正

## ■河川レンジャー制度運営委員会 委員会レビューワーキング

「今後の河川レンジャー制度及び委員会組織のあり方について(答申・抜粋)」

### (1)河川レンジャーのあるべき姿

イ)河川レンジャー活動のあるべき原点は、住民の河川との生活の関わりの中から醸成されてきた住民の真の知恵を聴取し、この住民意見を新たな川づくりの河川整備に反映されるように努め大きな志を抱くことにあることを旨とする。

ロ)「つなぐ」という言葉には、二つの本質的な意味がある。一つは、河川に関わる住民の真の意見を聴取するための、住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」である。河川レンジャーは、この「つなぐ」を達成するために、住民の意見を極めて公平に掘り下げて聴取できるよう、なんびとの利益行動にも左右されずに日常から思想と信条に関する倫理獲得に努め、住民個人あるいは住民組織と接していかなければならない。二つめは、河川レンジャーと河川管理者との間の「つなぐ」である。すなわち、河川レンジャーからの住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」結果の河川管理者への報告過程である。河川管理者は、河川整備を行うにあたって、住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」と河川レンジャーと河川管理者との間の「つなぐ」の二つの「つなぐ」を施策に十分に生かし反映させなければならない。

ハ)河川レンジャー活動の理念、あるべき姿を明文化し、委員会委員ならびに河川レンジャーが活動目的の本質を認識して、これの共有を図る。

### (2)河川レンジャーの育成

イ)開催講座の継続的開催  
ロ)相互理解を図るための交流の場

### (3)河川レンジャー活動成果の評価

イ)委員会が河川レンジャー制度の理念、目標を明確に提示できるという前提で、河川レンジャーの個別の活動について、その理念、目標の達成度を評価する。

ロ)河川レンジャー活動総体としての全体評価

### (4)委員会の果たすべき役割

イ)委員会委員の関与  
ロ)委員会及び委員の役割  
ハ)河川レンジャーと委員とのコミュニケーション

## ■河川レンジャー制度(今後)

### ○河川レンジャー制度運営委員会規約(前文(抜粋))

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域およびその周辺で行うものとする。

### ○河川レンジャー活動の理念・あるべき姿

河川レンジャー活動の「理念」及び河川レンジャー活動に当たった「姿勢」住民の真の知恵を聴取し、新たな川づくりに反映させるための活動プロセスとその「心得」活動テーマ設定の「視点事例」

※河川レンジャーの理念・あるべき姿の文章作成に基づいて、河川レンジャー制度運営委員会規約の改正が必要との判断はしない

※河川レンジャー活動の評価制度に関しては、河川レンジャー制度の理念・目標の明示がなされることによって、河川レンジャー個別活動評価について委員会にて検討する

※河川レンジャーの理念・目標の明示に関し、顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズを明示し、住民と行政との連携・協働がより積極的に取り組まれ、河川レンジャーの個別活動の評価、継続審査、任命審査に活用されるものとする。

# 河川レンジャー活動の理念・あるべき姿の位置づけ

令和2年2月14日  
第59回 琵琶湖河川レンジャー制度運営委員会  
【検討資料】

「河川レンジャー」については、淀川水系河川整備計画で提起され、琵琶湖河川事務所管内では、平成18年度に「河川レンジャー制度」が制度化された。それ以降、当制度に基づく河川レンジャー活動が展開されてきたが、平成24年度に、今後の河川レンジャー制度及び委員会組織のあり方について、ワーキングによるレビューに基づき答申が行われた。ここに示す、「河川レンジャー活動の理念・あるべき姿」は、当答申に基づいて明文化するものである。

## ■淀川水系河川整備計画（平成21年3月策定）

河川レンジャーは、行政と住民との間に介在して、住民が河川に関心を持つような活動に取り組むとともに、個別事業の検討段階における住民意見の聴取や、住民の河川にかかわるニーズの収集を行う。当面は、河川にかかる環境学習等の文化活動や動植物の保護活動、河川利用者への安全指導等の活動を試行する。また河川レンジャー自らが住民と行政をつなぐテーマについて、試行も含めて活動の充実を図る。将来的には、地域住民と河川管理者とが連携しながら河川整備を進めていく上で、住民と河川管理者との橋渡し役となることも期待される。

## ■河川レンジャー制度(現状)

### ○河川レンジャー制度運営委員会規約

#### ・前文(抜粋)

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域およびその周辺で行うものとする。

・名称、目的、委員の責務、審議事項、組織等、任期、委員長・副委員長、委員会、議事、委員会の公開、事務局、規約の改正、雑則

### ○琵琶湖河川レンジャー活動要領

・趣旨、定義、責務、活動拠点、任命及び解任、活動休止及び再開、任期、活動支援、活動計画、活動報告、研修、謝金等、保険の加入、活動要領の改正

## ■河川レンジャー制度運営委員会 委員会レビューワーキング

「今後の河川レンジャー制度及び委員会組織のあり方について(答申・抜粋)」

### (1)河川レンジャーのあるべき姿

イ)河川レンジャー活動のあるべき原点は、住民の河川との生活の関わりの中から醸成されてきた住民の真の知恵を聴取し、この住民意見を新たな川づくりの河川整備に反映されるように努め大きな志を抱くことにあることを旨とする。

ロ)「つなぐ」という言葉には、二つの本質的な意味がある。一つは、河川に関わる住民の真の意見を聴取するための、住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」である。河川レンジャーは、この「つなぐ」を達成するために、住民の意見を極めて公平に掘り下げて聴取できるよう、なんびとの利益行動にも左右されずに日常から思想と信条に関する倫理獲得に努め、住民個人あるいは住民組織と接していかなければならない。二つめは、河川レンジャーと河川管理者との間の「つなぐ」である。すなわち、河川レンジャーからの住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」結果の河川管理者への報告過程である。河川管理者は、河川整備を行うにあたって、住民と河川レンジャーとの間の「つなぐ」と河川レンジャーと河川管理者との間の「つなぐ」の二つの「つなぐ」を施策に十分に生かし反映させなければならない。

ハ)河川レンジャー活動の理念、あるべき姿を明文化し、委員会委員ならびに河川レンジャーが活動目的の本質を認識して、これの共有を図る。

### (2)河川レンジャーの育成

イ)開催講座の継続的開催  
ロ)相互理解を図るための交流の場

### (3)河川レンジャー活動成果の評価

イ)委員会が河川レンジャー制度の理念、目標を明確に提示できるという前提で、河川レンジャーの個別の活動について、その理念、目標の達成度を評価する。

ロ)河川レンジャー活動総体としての全体評価

### (4)委員会の果たすべき役割

イ)委員会委員の関与  
ロ)委員会及び委員の役割  
ハ)河川レンジャーと委員とのコミュニケーション

## ■河川レンジャー制度(今後)

### ○河川レンジャー制度運営委員会規約(前文(抜粋))

琵琶湖河川レンジャーは、さらに住民と住民ならびに住民と行政との連携・協働を国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所の直轄管理する区域およびその周辺で行うものとする。

### ○河川レンジャー活動の理念・あるべき姿

河川レンジャー活動の「理念」及び河川レンジャー活動に当たった「姿勢」住民の真の知恵を聴取し、新たな川づくりに反映させるための活動プロセスとその「心得」活動テーマ設定の「視点事例」

※河川レンジャーの理念・あるべき姿の文章作成に基づいて、河川レンジャー制度運営委員会規約の改正が必要との判断はしない

※河川レンジャー活動の評価制度に関しては、河川レンジャー制度の理念・目標の明示がなされることによって、河川レンジャー個別活動評価について委員会にて検討する

※住民から寄せられたニーズに変化があった場合、河川管理者は、住民と行政との連携・協働がより積極的に取り組まれるよう制度運営委員会に報告し、制度運営委員会は、河川レンジャーの個別活動の評価、継続審査、任命審査に活用するものとする。

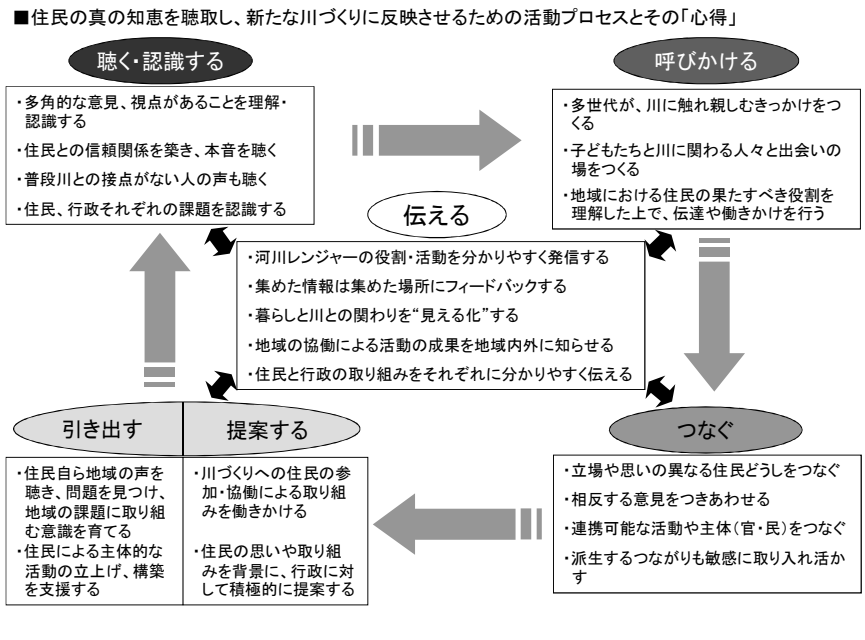
# 河川レンジャー活動の理念・あるべき姿

令和元年10月31日  
第58回 琵琶湖河川レンジャー制度運営委員会  
【検討資料】

**■河川レンジャー活動の「理念」**  
 河川は、昔から住民の生活や生業と深い関係にあり、人々は日常的に川に触れ、遊び、恵みを得てきました。またその一方で、河川の氾濫等により、大きな被害を繰り返し受けてきた歴史もあります。  
 高度経済成長の大変動の中で、人々は、より便利で、安全で、効率の高い方法で、生活の向上、産業の発展を求めようになり、いつしか人々は、河川に背を向け、その整備や維持管理は専ら行政によるものとして認識されるようになりました。  
 しかし、河川整備計画に示されているように、本来、河川は貴重な自然環境や地域固有の風土・文化などを育む地域の財産であり、ともに守り育てていくことが求められます。  
 そのため今必要なこと、それは、**住民自身が河川を守り育てていく「主人公」であるという意識を育み、河川の豊かさを実感しながら、新たな川づくりに主体的に携わっていく**ことです。そして、**住民と住民がつながり、行政とも連携しながら、川づくり、湖づくりとともに取組んでいく**ことが期待されます。  
**琵琶湖河川レンジャーは**、こうした河川を取り巻く状況の中で、顕在化している課題だけでなく、将来を展望し、潜在している課題にも着目しながら、**川づくりに対する住民の意識を喚起し、住民自身による活動を引き出し、住民と住民、住民と行政の協働の関係づくりをコーディネートする役割**を担います。そのため、**様々な立場の住民とのコミュニケーションや、住民活動への助言やサポート、住民と行政との協働による河川管理のあり方に関する提言などを積極的に**行っていきます。  
 その結果、河川を愛し、守り、触れ親しむ人や、災害や事故などに対して自発的に対処できる人を増やし、かつてのような人々と河川との豊かな関係を再構築していきます。

**■河川レンジャー活動に当たっての「姿勢」**

- 長期的な視野、幅広い視点、そして大きな志を持って活動に臨む
- 固定観念にとらわれない柔軟な発想で活動テーマを定める
- 定めたミッションの達成に向けて、住民と向き合い着実に進めていく
- 主役はレンジャーではなく、住民自身であるという認識に立って取り組む
- 独立性を保ち、自らの立場を明らかにして活動する
- 継続性のある活動、受け継がれる活動に取り組む
- 活動に必要な知識やスキルを日々向上させる努力を行う



**■活動テーマ設定に際しての「視点事例」**

- 川から遠ざかっている子ども、住民に対する関心の喚起
- 川の自然的価値、歴史・文化的価値の再発見
- 住民の昔からの暮らしの中で培われてきた環境維持技術の掘り起こし(好循環型社会の再構築)
- 外来種による生態系や文化・社会への影響
- 水防災への関心の喚起
- 顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズに関する取り組み(別紙参照)

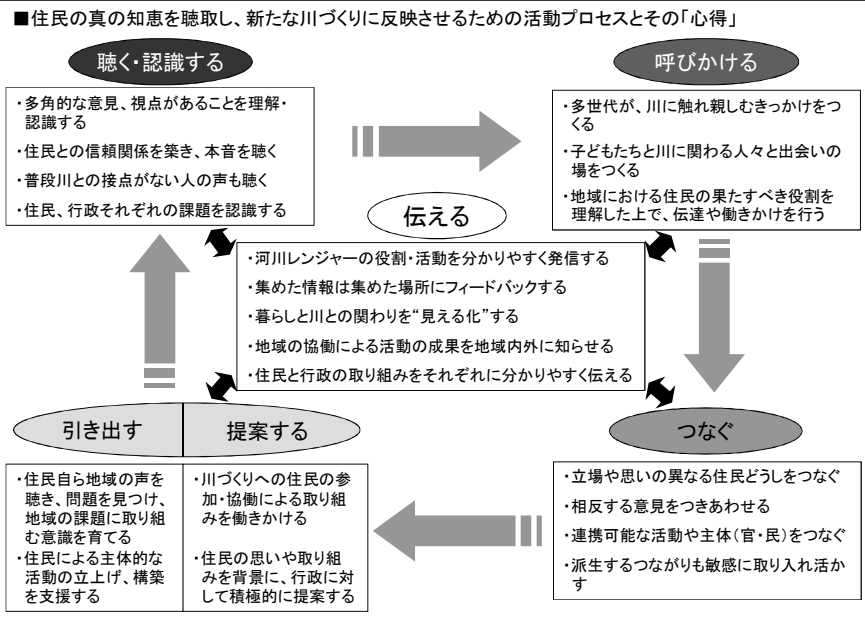
# 河川レンジャー活動の理念・あるべき姿

令和2年2月14日  
第59回 琵琶湖河川レンジャー制度運営委員会  
【検討資料】

**■河川レンジャー活動の「理念」**  
 河川は、昔から住民の生活や生業と深い関係にあり、人々は日常的に川に触れ、遊び、恵みを得てきました。またその一方で、河川の氾濫等により、大きな被害を繰り返し受けてきた歴史もあります。  
 高度経済成長の大変動の中で、人々は、より便利で、安全で、効率の高い方法で、生活の向上、産業の発展を求めようになり、いつしか人々は、河川に背を向け、その整備や維持管理は専ら行政によるものとして認識されるようになりました。  
 しかし、河川整備計画に示されているように、本来、河川は貴重な自然環境や地域固有の風土・文化などを育む地域の財産であり、ともに守り育てていくことが求められます。  
 そのため今必要なこと、それは、**住民自身が河川を守り育てていく「主人公」であるという意識を育み、河川の豊かさを実感しながら、新たな川づくりに主体的に携わっていく**ことです。そして、**住民と住民がつながり、行政とも連携しながら、川づくり、湖づくりとともに取組んでいく**ことが期待されます。  
**琵琶湖河川レンジャーは**、こうした河川を取り巻く状況の中で、顕在化している課題だけでなく、将来を展望し、潜在している課題にも着目しながら、**川づくりに対する住民の意識を喚起し、住民自身による活動を引き出し、住民と住民、住民と行政の協働の関係づくりをコーディネートする役割**を担います。そのため、**様々な立場の住民とのコミュニケーションや、住民活動への助言やサポート、住民と行政との協働による河川管理のあり方に関する提言などを積極的に**行っていきます。  
 その結果、河川を愛し、守り、触れ親しむ人や、災害や事故などに対して自発的に対処できる人を増やし、かつてのような人々と河川との豊かな関係を再構築していきます。

**■河川レンジャー活動に当たっての「姿勢」**

- 長期的な視野、幅広い視点、そして大きな志を持って活動に臨む
- 固定観念にとらわれない柔軟な発想で活動テーマを定める
- 定めたミッションの達成に向けて、住民と向き合い着実に進めていく
- 主役はレンジャーではなく、住民自身であるという認識に立って取り組む
- 独立性を保ち、自らの立場を明らかにして活動する
- 継続性のある活動、受け継がれる活動に取り組む
- 活動に必要な知識やスキルを日々向上させる努力を行う



**■活動テーマ設定に際しての「視点事例」**

- 川から遠ざかっている子ども、住民に対する関心の喚起
- 川の自然的価値、歴史・文化的価値の再発見
- 住民の昔からの暮らしの中で培われてきた環境維持技術の掘り起こし(好循環型社会の再構築)
- 外来種による生態系や文化・社会への影響
- 水防災への関心の喚起
- 顕在化している**住民ニーズへの取り組み**【河川管理者に寄せられた住民ニーズ(別紙参照)】
- 潜在化している**住民ニーズを把握する取り組み**。

### ■河川レンジャー活動のイメージ

地に足をつける／地にありながら、天を思う。  
視野の広さ／鳥のように、空から世界を見渡す。  
多角的／蜻蛉のように、複眼で見る。  
夢を語る・見せる／天下人のように、大きな夢を描く。  
情熱／恋人のように、情熱で人を動かす。  
夢の発掘／考古学者のように、こつこつと地域の夢を発掘する。  
想いを形にする／産婆のように、住民の主体性が生まれる手伝いをする。  
主人公になるお手伝い／名脇役のように、地域住民を引き立てる。  
翻訳者、通訳／仲人のように、人を結ぶ。  
紡ぐ／紡ぎ手のように、声なき人の声を紡ぎ出す。  
デザインする／織師のように、多くの人の想いや動きを縦横に織る。  
伝える／郵便屋のように、想いを届ける。  
冷静・独立／審判のように、冷静に公正かつ公平にふるまう。  
努力／アスリートのように、日々の努力を怠らない。  
柔軟性／猫のように、しなやかに動く。  
思考力／芸術家のように、鋭い観察眼で洞察する。  
機動性、現場に立脚／新聞記者のように、足で稼ぐ。  
継続性／職人のように、技術を日々積み重ねて進化する。  
技／ドラえもんのように、あらゆる道具を繰り出す。

作成：南村委員

### ■顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズ

- 野洲川の河道内樹木を伐採してほしい
  - 繁茂が著しくて増水の後、ビニールなどがゴミが引っかかって景観が悪い
  - 繁茂が著しくて流れを阻害していないか
  - 増水したときに溢れないか
  - 利用したいのに水際に近づけない
- 野洲川の高水敷の草を刈ってほしい
  - 繁茂が著しく景観が悪い
  - 利用したいのに高水敷の草で水際に近づけない
  - 花粉症なので早く刈ってほしい
- 野洲川の河口部が土砂を取ってほしい
  - 以前にくらべて河道に土砂がたまってきている。増水したときに溢れないか
- 瀬田川の水草を刈ってほしい
  - 繁茂してゴミが引っかかって汚い
  - 水面利用に支障がある(ボート・カヌーなど)
  - 臭いがひどい
- 瀬田川の外来種を駆除してほしい
  - 外来種(生物・植物)が増えて環境が悪化している
- (野洲川・瀬田川共通)ゴミを取ってほしい
  - 近くの川沿いにゴミ(生活・飲食・喫煙等)があつて汚い
  - 大型ゴミが投棄されている
  - 利用しようと思っても汚くて行けない
- (野洲川・瀬田川共通)河川の活用
  - ボート・カヌーが降りしやすいように護岸に傾斜をつけたい
  - 河川敷でバーベキューがしたい
  - 河川敷でラジコンやドローンがしたい、していて危険では？
  - 草を刈るのでスポーツの練習に使いたい
- 琵琶湖の水位が高い・低い
  - 水位管理をどのように考えてしているのか解らない
  - 大雨で水位が高くなっているのになぜ下げないのか
  - 漁業や農業、生きものに影響は？

(令和元年00月00日 現在)

## ◆別紙

### ■河川レンジャー活動のイメージ

地に足をつける／地にありながら、天を思う。  
視野の広さ／鳥のように、空から世界を見渡す。  
多角的／蜻蛉のように、複眼で見る。  
夢を語る・見せる／天下人のように、大きな夢を描く。  
情熱／恋人のように、情熱で人を動かす。  
夢の発掘／考古学者のように、こつこつと地域の夢を発掘する。  
想いを形にする／産婆のように、住民の主体性が生まれる手伝いをする。  
主人公になるお手伝い／名脇役のように、地域住民を引き立てる。  
翻訳者、通訳／仲人のように、人を結ぶ。  
紡ぐ／紡ぎ手のように、声なき人の声を紡ぎ出す。  
デザインする／織師のように、多くの人の想いや動きを縦横に織る。  
伝える／郵便屋のように、想いを届ける。  
冷静・独立／審判のように、冷静に公正かつ公平にふるまう。  
努力／アスリートのように、日々の努力を怠らない。  
柔軟性／猫のように、しなやかに動く。  
思考力／芸術家のように、鋭い観察眼で洞察する。  
機動性、現場に立脚／新聞記者のように、足で稼ぐ。  
継続性／職人のように、技術を日々積み重ねて進化する。  
技／ドラえもんのように、あらゆる道具を繰り出す。

作成：南村委員

### ■顕在化している河川管理者に寄せられた住民ニーズ

- 野洲川の河道内樹木を伐採してほしい
- 繁茂が著しくて増水の後、ビニールなどがゴミが引っかかって景観が悪い
- 繁茂が著しくて流れを阻害していないか
- 増水したときに溢れないか
- 利用したいのに水際に近づけない
- 野洲川の高水敷の草を刈ってほしい
- 繁茂が著しく景観が悪い
- 利用したいのに高水敷の草で水際に近づけない
- 花粉症なので早く刈ってほしい
- 野洲川の河口部の土砂を取ってほしい
- 以前にくらべて河道に土砂がたまってきている。増水したときに溢れないか
- 瀬田川の水草を刈ってほしい
- 繁茂してゴミが引っかかって汚い
- 水面利用に支障がある(ボート・カヌーなど)
- 臭いがひどい
- 瀬田川の外来種を駆除してほしい
- 外来種(生物・植物)が増えて環境が悪化している
- (野洲川・瀬田川共通)ゴミを取ってほしい
- 近くの川沿いにゴミ(生活・飲食・喫煙等)があつて汚い
- 大型ゴミが投棄されている
- 利用しようと思っても汚くて行けない
- (野洲川・瀬田川共通)河川の活用
- ボート・カヌーが降りしやすいように護岸に傾斜をつけたい
- 河川敷でバーベキューがしたい
- 河川敷でラジコンやドローンがしたい、していて危険では？
- 草を刈るのでスポーツの練習に使いたい
- 琵琶湖の水位が高い・低い
- 水位管理をどのように考えてしているのか解らない
- 大雨で水位が高くなっているのになぜ下げないのか
- 漁業や農業、生きものに影響は？

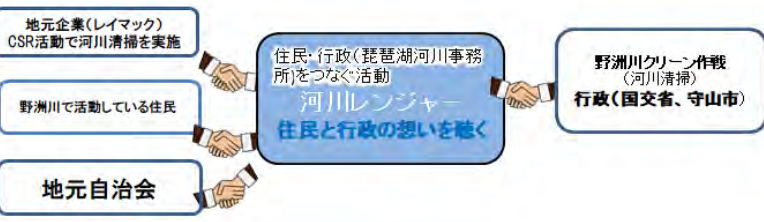
(令和2年2月14日 現在)

# 水上レンジャーの巻 琵琶湖河川レンジャー レポート

**住民と行政が共に考え  
共に活動する川づくり**

住民の思いと行政の想いを繋ぎあんなから愛される野洲川へ」

「住民と行政が共に考え、共に活動する川づくり」をテーマに行政と企業や地域住民の方々が別々に実施している野洲川の河川清掃活動を河川レンジャーが繋ぎました。



◆ 水上河川レンジャーの活動フロー図(野洲川の河川清掃) ◆

## 水上河川レンジャーより(活動概要)

第一部では、野洲川中州親水公園(あめんぼう)の上下流の河川清掃を行いました。

地元の企業の(株)レイマック、地元自治会、行政(琵琶湖河川事務所、守山市)あわせて約70名の方々に参加して頂きました。



第二部では、野洲川中州親水公園の前の水辺で野洲川通水40周年記念イベントとして防災カマドを造り、出来上がった防災カマドで非常炊き出し体験を行いました。



防災カマドの火がうまく起こせなくて皆さん苦労されていました

河川レンジャー  
活動支援室  
2020年1月発行  
VOL. 39



行政(琵琶湖河川事務所・守山市)、地元の企業(株)レイマック、地元自治会の方々と連携した河川清掃活動ができました。また、近年、全国で想定外の災害が起きています。小さな活動ですが、防災カマドの体験を通じて、防災に関心を持って頂く事ができたと考えています。



今後も「皆から愛される野洲川」を目指して、行政と住民の橋渡し役として河川レンジャー活動を進めていきます。

## 河川レンジャー活動紹介・レンジャー名・“活動テーマ”・進行している活動



### 根木山レンジャー

“野洲川の川守りをつなぐ”をテーマに活動しています！

野洲川下流部・守山市中洲地区にて活動しています。「かわまちづくり」として整備された野洲川中洲親水公園の住民による利用促進に取り組んでいます。また、昨年度から、野洲川の樹木伐採(公募)を行う住民を支援しており、今年度は、2月から「土日合同伐採作業日」を3回実施すべく、河川管理者と連携して運営にあたっています。またウェブ、SNS等で「野洲川の樹木伐採(情報交換サイト)」を立ち上げ、情報発信しています。



### 近藤レンジャー

“河川利用者間の交流の場を作り、協同での清掃活動の実施をめざして”をテーマに活動しています！

年末に一度、瀬田川流域の複数の大学生団体と年末大掃除と銘打ってついに共同での清掃活動を実施することができました。この調子で引き続き頑張っていきたいです。先日、地域防災マップ作りのお話を聞いて非常に興味湧き、時間が許せばそちらのほうにも手を伸ばしてみようかな、などと考えております。任期期間も残りわずかとなりましたが全力で頑張ろうと思います。

**活動拠点** (問い合わせ先)  
水のみぐみ館 ウォーターステーション琵琶内 河川レンジャー活動支援室  
〒520-2279 滋賀県大津市黒津4-2-2 TEL077-536-3520 FAX077-536-3530  
E-mail : r-manager@water-station.jp URL : <http://www.water-station.jp/ranger>  
FB : <http://www.facebook.com/BiwakoRanger>

**フェイスブックで活動を広報しています！**  
琵琶湖河川レンジャーFacebookページ  
<https://www.facebook.com/BiwakoRanger/>

## 野洲川河口部ヨシ帯再生事業(概要)

### 事業の目的

横断連続性の回復を図り、コイ科魚類等の産卵・生息環境の再生をねらい、野洲川河口部および周辺湖岸でヨシ原を復元する。

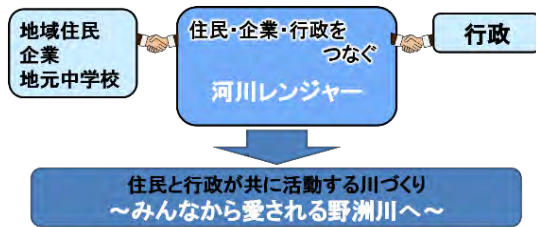
- 新しく作った大きな野洲川ができ、昔から苦しめられた水害がなくなりました。
- 野洲川の河口部に川をつくるために、鋼矢板を打って川の水があふれないようにしました。そのためニゴロブナなどの産卵や魚の子供達の住み処がなくなっていました。



- ニゴロブナや魚の子供達を助けるため、鋼矢板の前にヨシ原をつくり魚たちが産卵したり、魚の子供達が住めるようにしました。



## 行政と住民（中学生）を繋ぐ河川レンジャー



国土交通省が整備した野洲川河口部ヨシ帯で立命館守山中学校の生徒の皆さんがモニタリング調査を行っています。

河川レンジャーが河川管理者である国土交通省琵琶湖河川事務所とのつなぎ役を行い、意見交換会の運営や調査の支援を行っています。

中学生ならではの視点を生かしたり、簡単でわかりやすい調査方法を探求したりと、地域の学校と河川管理者のWIN-WINが向上するように発展させています。

## 河川管理者（琵琶湖河川事務所）と中学生が連携したモニタリング調査

### 1. ヨシ帯がどのように成長していくか調査（面積調査）

ヨシ帯の面積を測定してヨシ帯の成長を調査しています

### 2. 生き物の住処（すみか）としての調査（植生調査）

ヨシ帯にどのような植物が植生しているか調査しています

#### ～ヨシ帯繁殖状況調査～

簡易GPSを用いた、面積測定



#### ～現地での植生調査～

- ドローンの空撮写真を活用して植生図を作成。
- 作成した植生図を現地に持参し、机上で判読した植物が実際に植生しているか生徒たちと検証を行いました。



### 植生図

ドローンで撮影した野洲川右岸河口部の航空写真に、中学生たちが各種植物を判読しマーキングしました。



## 2019 年度の年間スケジュール

2019 年度の琵琶湖河川レンジャーの年間スケジュールは以下の通りです。

時期	制度運営委員会等	河川レンジャーミーティングおよび勉強会(仮称)	その他 (Rレポート発行、流域連携支援室関係 他)	
平成 31 年度	4月			
令和 元 年度	5月	5/23 第1回 琵琶湖河川R・琵琶湖河川事務所 意見交換会	第1回 河川レンジャーミーティング	
	6月	6/14 第57回 制度運営委員会		
	7月		流域連携イベント 7/20-21「第12回 水辺の匠」	
	8月			
	9月	9/18 第1回 河川レンジャー勉強会 「河川の基礎知識と水辺の安全」	流域連携イベント 9/15「野洲川放水路通水40周年イベント」	
	10月	10/31 第58回 制度運営委員会	流域連携イベント 10/5-6 「第12回 いい川・いい川づくりワークショップ」	
	11月		琵琶湖河川レンジャーレポート vol.38 発行	
	12月		流域連携イベント 12/1「第8回 水辺の匠クリスマス」	
	1月	1/14 第2回 琵琶湖河川R・琵琶湖河川事務所 意見交換会	1/31 第2回 河川レンジャー勉強会 「河川の基礎知識と水防災」	琵琶湖河川レンジャーレポート vol.39 発行
	2月	2/14 第59回 制度運営委員会		琵琶湖河川レンジャーレポート vol.40 発行
3月				